

# 木更津市水産振興計画

平成28年3月

木 更 津 市

## 目 次

第1章 水産振興計画策定にあたって	1
1 目的	1
2 計画期間	1
3 位置付けと役割	1
4 推進体制	2
第2章 水産業の現状と課題	3
1 漁業協同組合	3
2 担い手	4
3 漁業生産の状況	6
4 水産資源の生息環境	9
5 漁業生産基盤	13
第3章 水産振興計画体系図	14
第4章 目指すべき水産業の姿	15
第5章 基本方針	16
1 干潟環境及び生態系の保全と基盤整備の促進	16
2 収益力の高い漁業経営体への転換	16
3 都市と漁村との交流促進	16
第6章 基本施策	18
1 漁業生産基盤の整備	18
2 漁業振興の推進	18
3 観光漁業の推進	20
付属資料	
1 策定の経過	21
2 アンケート調査結果	23
3 平成27年度の主な事業	43

## 第1章 水産振興計画策定にあたって

### 1 目的

本市では、木更津市総合計画に基づき、まちづくりを総合的かつ計画的に推進しています

木更津市総合計画は、基本構想（目標年次：平成42年）、きさらづ未来活力創造プラン（基本計画、計画期間：平成27年度～平成30年度）、実施計画から構成されており、本市の施策や事業は、この木更津市総合計画に基づいて行われています。

ただし、この計画は全体的なまちづくりの指針となるもので、水産振興の立場からは、具体的な内容により充実したものを示す必要があります。

そこで、水産振興計画を体系的に整理し、活力ある水産業の実現を目指してまいります。

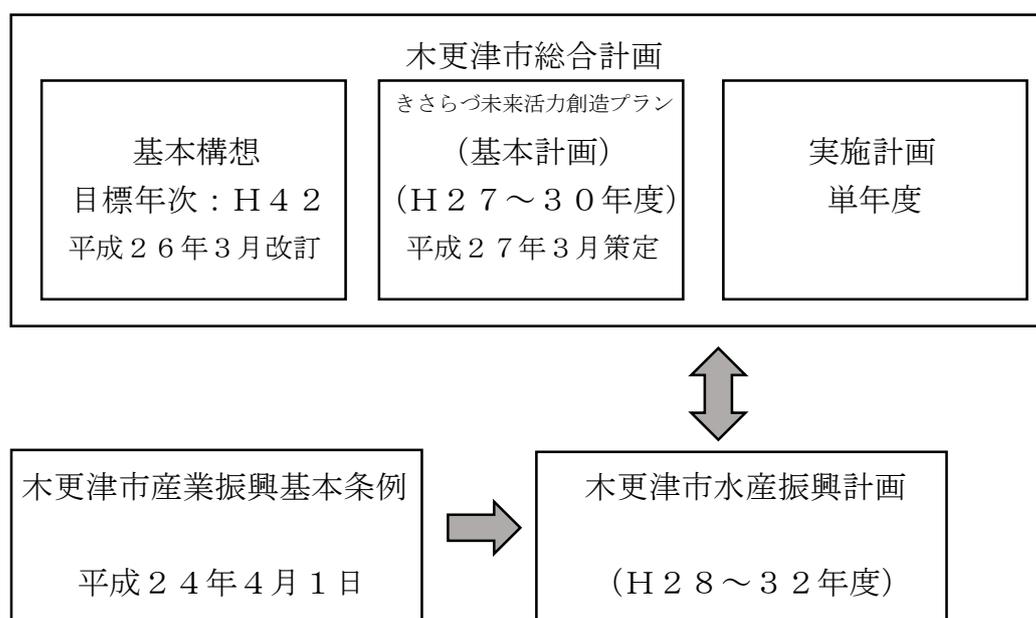
### 2 計画期間

平成28年度から平成32年度までの5年間とします。

計画の進捗状況や外部環境の変化などに応じて、必要な計画の見直しを図ります。

### 3 位置付けと役割

本計画は、木更津市産業振興基本条例の基本理念・方針を踏まえ、上位計画である木更津市総合計画の水産業部門に係る施策を明確に示し、本市水産業の持続的な発展を目指すものです。



#### 4 推進体制

将来の目指すべき木更津市の水産業を実現するため、この基本計画に基づき、漁業協同組合、生産者（漁業者）、関係機関・団体、消費者・企業、行政等が協働・連携し、水産振興策を推進していきます。

市は、各関係者と連携し、協力体制の構築を図ります。



木更津市マスコットキャラクター 「きさポン」

## 第2章 水産業の現状と課題

### 1 漁業協同組合

本市には、牛込漁業協同組合・金田漁業協同組合・久津間漁業協同組合・江川漁業協同組合・木更津市中里漁業協同組合・木更津漁業協同組合の計6漁協が組織されています。

水産業を取り巻く環境は全国的に厳しい状況にありますが、本市においても、水産資源の減少、漁業者の高齢化や担い手不足等により、水産業の疲弊が一段と進んでいます。

そのため、各漁協では、漁場環境の改善、資源の維持・増大及び生産性の向上等の事業を実施し、漁業振興に努めています。また、新たな取組として、アサリの資源育成技術の導入などによる試験を実施し、資源の安定供給を目指しています。

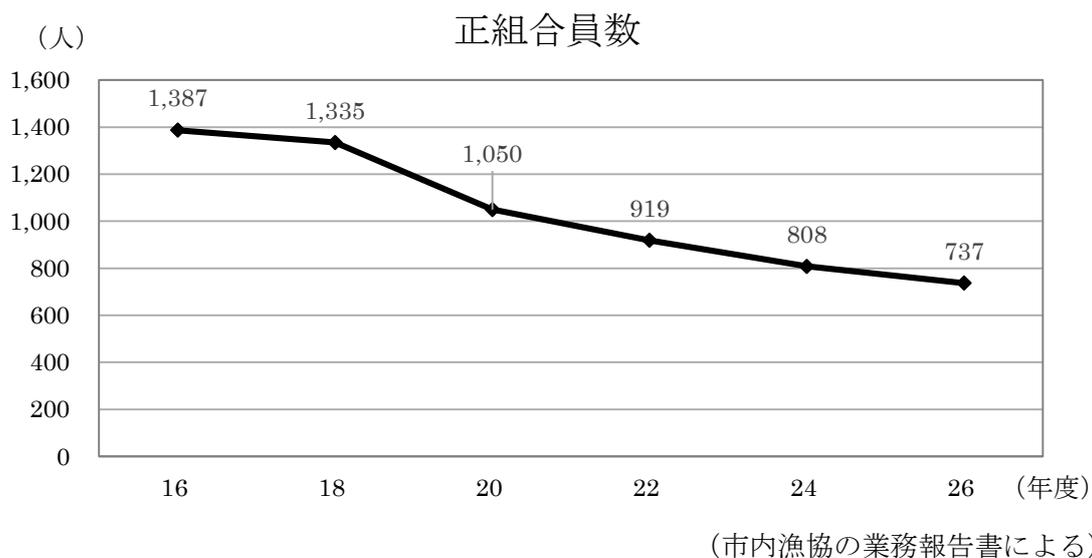
内水面漁業については、小櫃川漁業協同組合が、小櫃川の淡水魚介類資源の維持培養と漁場環境の保全を図るため、種苗放流等を実施しています。



木更津市の主な水産物（ノリ、アサリ、ハマグリ）

## 2 担い手

各漁協の業務報告書によると、正組合員数は、平成16年度は1,387人であったのに対し、平成26年度は737人で、10年間で半数近く減少しています。また、アンケート調査においても、「あなたの漁業について将来どのようにしたいですか（複数回答）」について、「やめるつもり」と回答した人数が全体の54%に上り、今後も減少傾向は続くものと推測されます。

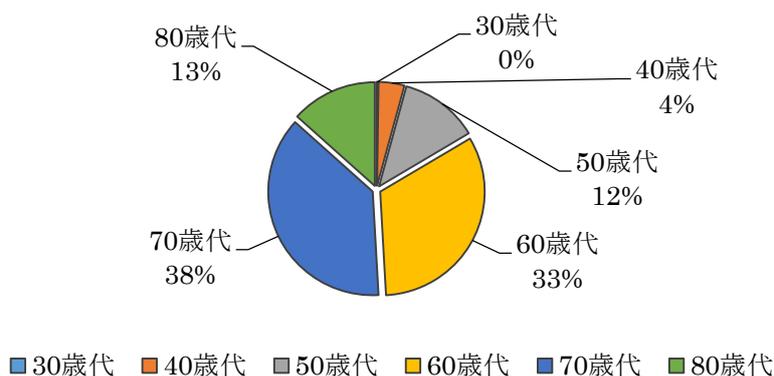


あなたの漁業について将来どのようにしたいですか(複数回答)								
拡大したい	現状維持 でよい	縮小したい	別の種類の 漁業をしたい	雇用したい	協業化したい	やめる つもり	その他 (記述)	合計
42	108	16	19	3	16	204	22	430
11%	29%	4%	5%	1%	4%	54%	6%	114%

(H27アンケート調査による)

アンケート調査によると、平均の年齢は68.7歳。回答者450人中70歳以上が全体の約半数を占めている状況です。また50歳代以下は20%にも満たない数となっています。

### 漁業就業者の年齢構成（H27アンケート）

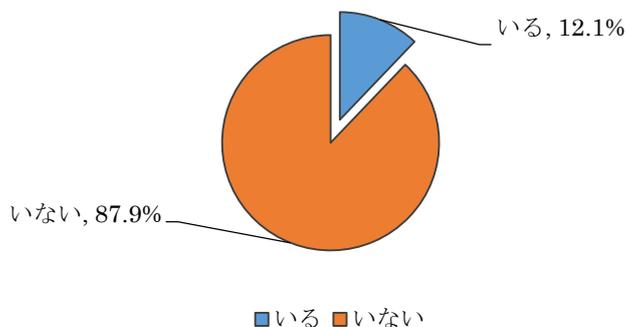


あなたの年齢は？					
30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代
1	18	55	147	169	60
0.2%	4.0%	12.2%	32.7%	37.6%	13.3%

(H27アンケート調査による)

高齢化が進行する一方で後継者の不足も大きな課題となっています。アンケート調査では後継者が「いる」と答えた漁業就業者は51人、「いない」と答えた人数は371人で「いない」が大きく上回りました。

### 漁業後継者の有無（H27アンケート）

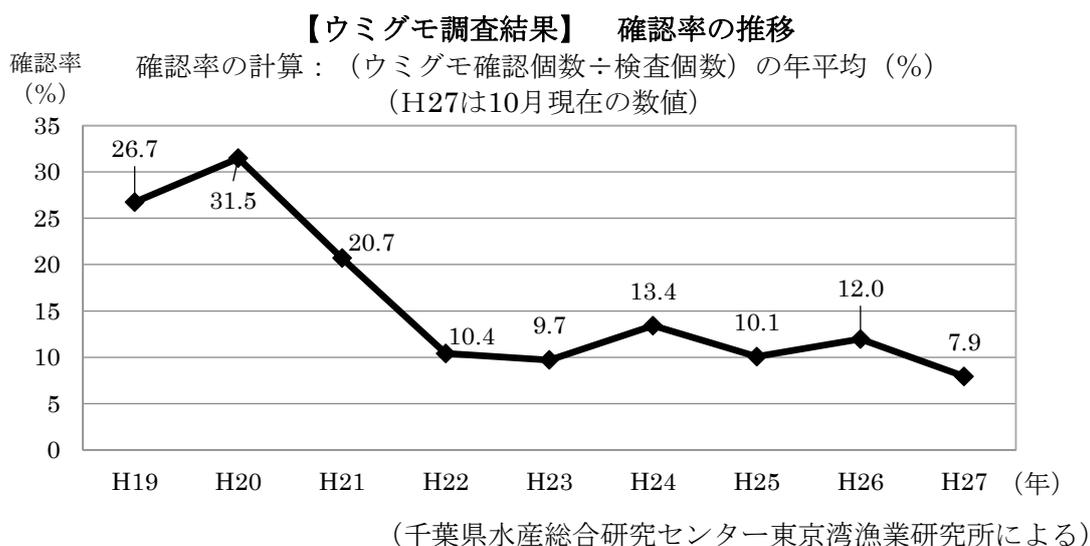
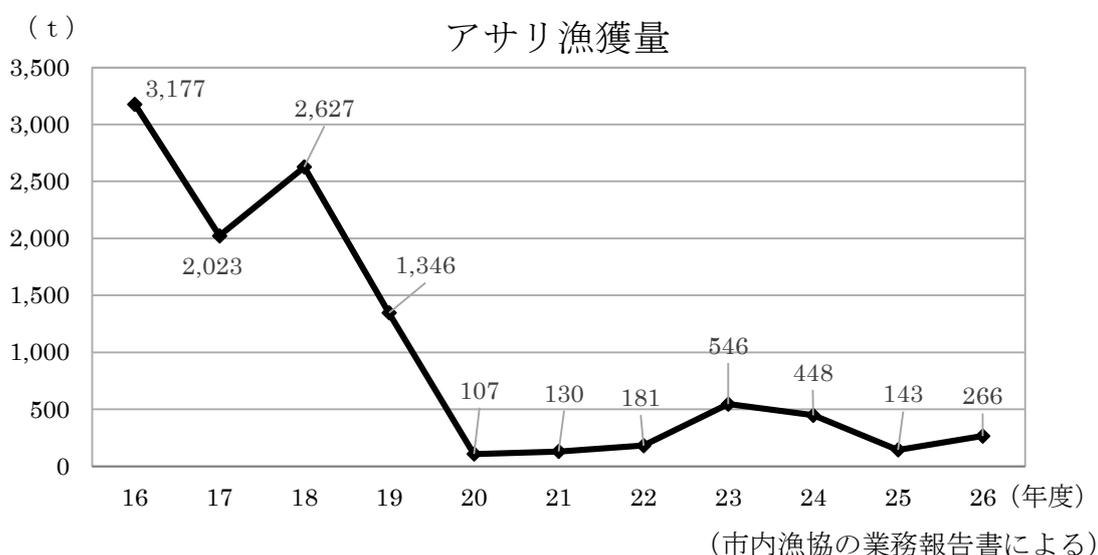


### 3 漁業生産の状況

本市の主な漁業は、採貝漁業・ノリ養殖業です。

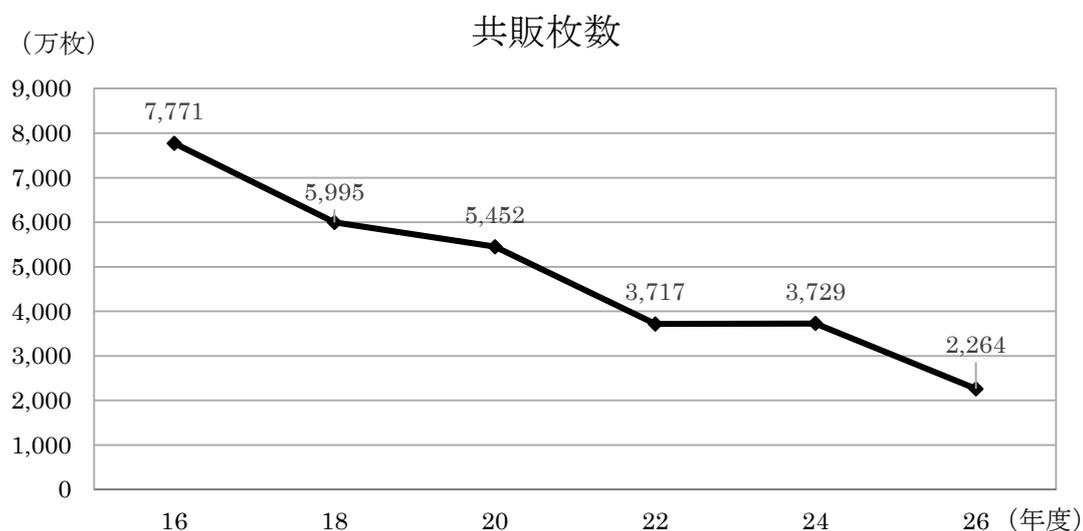
採貝漁業のうちアサリには、カイヤドリウミグモ、ツメタガイ、アオサ等、害敵生物が多く存在します。中でも、カイヤドリウミグモの被害が大きく、平成19年に発生して以来、漁獲量は激減しました。

市内漁協の業務報告書によると、平成19年は1,346 tであったのに対し、平成20年は107 tまで落ち込みました。現在は激減のピークからはわずかに改善したものの、依然として厳しい状況が続いています。



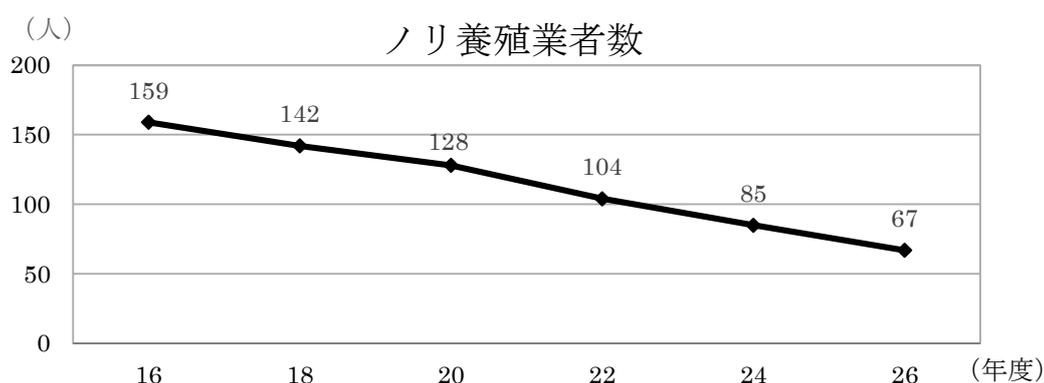
ノリ養殖業は、育苗期に発生する台風や、漁場の高水温化・貧栄養化など、漁場環境の変化に直面しています。

また、ノリの共販実績による共販枚数は、平成16年度は7,771万枚であったのに対し、平成26年度は2,264万枚と減少しています。



(ノリの共販実績による)

ノリ養殖業者は、各漁協からの聞き取り調査によると、平成16年度は159経営体であったのに対し、平成26年度は67経営体で、10年間で半数以上減少しております。また、各漁協からの聞き取り調査によると、平成26年度では、60歳以上は47人と、全体の約7割を占めます。



年代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	合計
経営体 (代表者)	3	5	12	30	16	1	67

(各漁業協同組合への聞き取りによる)

アンケート調査によると、ノリ、アサリ、ハマグリ、バカガイ、魚類（カレイ、スズキ、キス等）のそれぞれの漁獲者数と漁獲量（合計，平均）は図表のとおりとなります。（※対象：平成26年4月1日～平成27年3月31日）

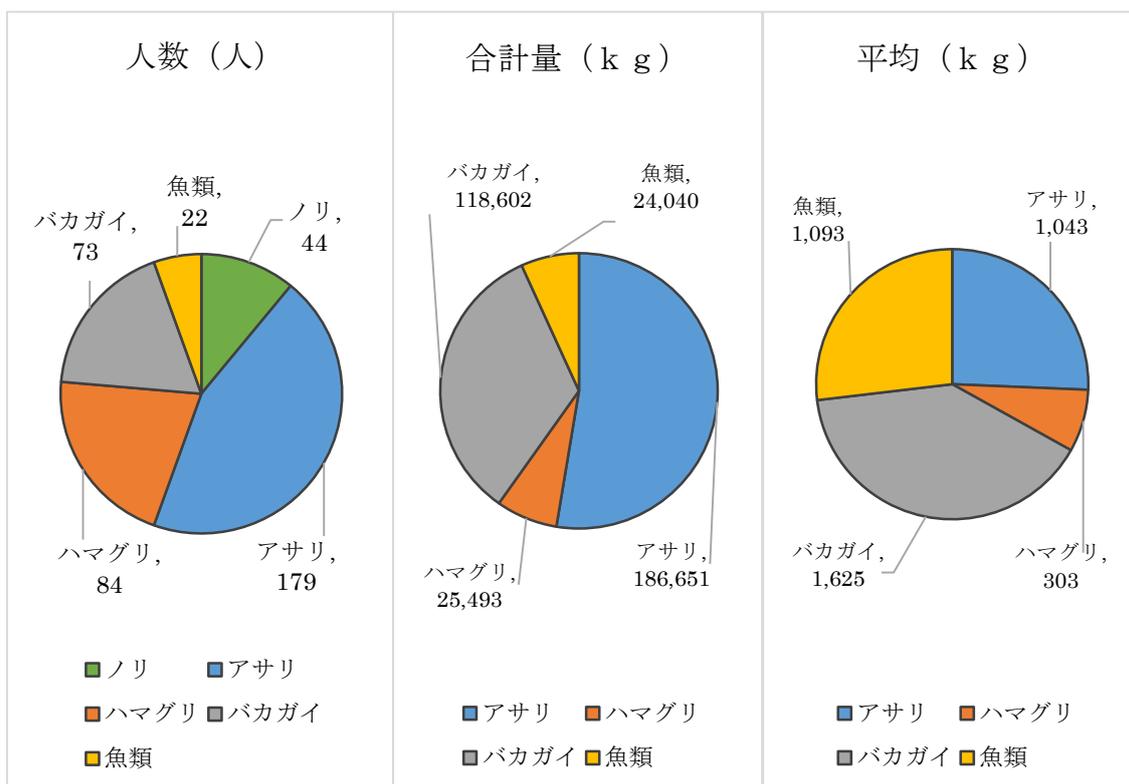
	ノリ
人数(人)	44
合計量(枚)	26,251,640
平均(枚)	596,628

	アサリ
人数(人)	179
合計量(kg)	186,651
平均(kg)	1,043

	ハマグリ
人数(人)	84
合計量(kg)	25,493
平均(kg)	303

	バカガイ
人数(人)	73
合計量(kg)	118,602
平均(kg)	1,625

	魚類
人数(人)	22
合計量(kg)	24,040
平均(kg)	1,093



(H27アンケート調査による)

#### 4 水産資源の生息環境

本市では、「3 漁業生産の状況」で示したとおり、平成19年に発生したカイヤドリウミグモの影響が大きく、アサリに寄生し、斃死を引き起こすため、漁獲量が激減しています。アサリの水揚を回復させるためには、カイヤドリウミグモを継続的に駆除する必要があります。

また、ツメタガイや、外来種であるサキグロタマツメタは、アサリなどの二枚貝の殻に穴を開けて捕食するため、やはり駆除する必要があります。

魚類では、エイ、クロダイが、鳥類では、カモがアサリを捕食するため、アサリを保護する対策が必要です。

アオサは、本市では牛込・金田・木更津の漁場で顕著に発生しますが、堆積・腐敗して、悪臭や酸素濃度の低下を招くなど、環境に大きな悪影響を及ぼすとともに、アサリの大量斃死につながるため、除去する必要があります。

漁場環境の課題としては、冬季の波浪や、木更津南部地区で発生する反射波、栄養塩の不足等などがあります。

波浪については、強い波浪による海底面の流動によって、潜砂していた稚貝が流され、冬季では疲弊し、死滅してしまいます。ノリ養殖業が盛んでノリ支柱柵が多かった時代には、ノリ支柱柵が波消しの役割を果たしていましたが、現在はノリ支柱柵が少なく、波が消えないため影響が出ていると考えられています。また、反射波については、冬季の波浪が木更津堤防に反射し、高波浪となることが懸念されています。

貧酸素水塊については、酸素の量が極端に少ない海水のかたまりのことをいいますが、東京湾内湾の底層では、毎年初夏から晩秋にかけてほぼ継続して貧酸素水塊が分布しており、本市においても、干潟に生息する貝類への影響が心配されています。

栄養塩については、植物プランクトンの栄養源となる窒素やリンを総称していいますが、東京湾へ流出する排水の水質規制に伴い、減少傾向にあります。海域の栄養塩濃度の減少により、アサリ、ノリなどの生産性は低下し、ノリの色落ちに影響すると推測されています。

小櫃川からの漂流・漂着物については、大雨時に、流竹木・ゴミ等が小櫃川から東京湾に流出し、漁場等に影響が及びます。

平成27年9月15日～17日の3日間、各漁業協同組合において、漁場環境等の課題に関するヒアリング調査を実施しました。

各漁協から聞き取りをした結果については、別表1、2「ヒアリング調査結果一覧（市内漁業協同組合）」のとおりです。

各漁協は、アサリ等の水揚量減少の要因となっている害敵生物、漁場環境等に関して課題と認識しています。



アオサ



アオサの駆除活動の様子（漁業者活動グループ）



カイヤドリウミグモ



カイヤドリウミグモの駆除活動の様子（漁業者活動グループ）



ツメタガイ（右）と  
その卵塊（左）



ツメタガイの駆除活動の様子（漁業者活動グループ）

## ヒアリング調査結果一覧（市内漁業協同組合）

◎ 特に顕著な影響がある

○ 影響がある

別表 1

課題 漁協名	害敵生物				
	ウミグモ	腹足類 (ツメタガイ等)	魚類 (エイ・クロダイ)	鳥類	アオサ
牛込	○	○	○	○	◎
		ツメタガイ 砂茶碗		カモ：アサリを食べる種類のカモにより10～20年前から被害が出ている。	毎年大量に発生する。堆積して腐るとガスを発生させ、アサリ稚貝の死滅を招く。現在新種を含め3種類が確認されている。
金田	◎	○	○		○
	年々発生時期、場所にズレがある。今年には前例がないほど密集して発生し集中的な駆除を行った。	ツメタガイ キサゴ：アサリと同じ場所で発生し、連鎖的な死を招く。	アカエイ		北よりに発生する。年度や時期によって大量に発生することもある。細い糸のような新しい品種が出てきた（イトワ）。
久津間	○	◎	○	○	
		サキグロタマツメタ：5年ほど前から確認。食欲が旺盛で、被害の体感ではウミグモより大きい。	アカエイ クロダイ	カモ：秋ごろ大挙してやって来る。	
江川	◎	○	○		
	アサリへの寄生があり、稚貝を入れることができない。昔は4～6月に入れているが、現在は遅らせている。	ツメタガイ サキグロタマツメタ：今年から急に増えだしたように感じる。	アカエイ クロダイ		
木更津市 中里	○	○	○		
			アカエイ：食害による被害のうち最も影響が大きい。表層を泳いでいるため、通常の刺網では捕獲が難しい。		
木更津	○				○
					出始めの早い時期から取り除いていくことが大事。
対策	国の事業（水産多面的機能発揮対策事業）により、継続的に駆除を行っている。情報を収集し、発生時期や場所を見定め、集中的な駆除を行っている。	国の事業（水産多面的機能発揮対策事業）により、継続的に駆除を行っている。卵塊駆除は、大量駆除につながり、効果が大である。	駆除する方法等、対策の検討が必要である。	国の事業（水産多面的機能発揮対策事業）により、被覆網を設置している。	国の事業（水産多面的機能発揮対策事業）により、継続的に除去を行っている。

別表 2

課題 漁協名	漁場					その他
	波浪	反射波	貧酸素水塊	栄養塩不足	漂流・漂着物	
牛込	○ 砂が定着しない。			○		密漁
			具体的な被害の発生 の程度や被害との 関係は不明。	漁場の方へ栄養塩 のある水は流れて 来ない。		夜間に密漁が横行 している。
金田	○				○	
	ノリ柵の減少に伴 い、波の影響を受 けたようになった。 冬季にアサリを流 してしまい、春の 生き残りがいなくな う。		極端な被害は確認 できていない。過 去に貝類が斃死し た原因のひとつの 可能性がある。		流竹木等が流れて くる。	
久津間	○			○	○	
	昔はノリ柵で波を 消していたが、今 は波で動かされ沖 の砂が固くなって しまった。			小櫃川から貝類、 魚類により影響を 与える水が流れて 来ない。感覚的に は8割程度栄養塩 が減った。東京湾 に流れ込む河川全 体の問題。	流竹木等が流れて くる。	
江川	○			○		
	昔はノリ柵があり 波を消していたが、 現在は波で砂が移 動してしまう。			小櫃川からの水は ノリに影響してい る。栄養塩が減少 するとノリの色が 落ちる。		
木更津市 中里		◎		○		
		反射波の影響を強 く受ける。沖の底 はどんどん高くな っている。北東の 風(季節風)が吹 くと内側に返し波 が立って複合的な 波になる。		小櫃川から淡水が 流れなくなってき た。また、下水が 整備されて、二枚 貝の餌になるもの が減ってしまった。		
木更津		◎		○		
		波によって砂がな くなってしまふ。 客土を継続的行 い、漁場によい砂 地を維持してい かなければなら ない。		アサリの餌となる ような栄養素が不 足している。		
対策	国の事業(水産多 面的機能発揮対策 事業)により、竹 柵(孟宗竹、割 竹)を設置してい る。	対策について検討 が進むように働き かけていく。	貧酸素水塊分布予 測システム等によ り情報を収集し、 漁業被害を軽減す る。また、覆砂事 業により、漁場を 高上げる。	河川からの供給に ついては、関係機 関と連携し、対策 を検討する。	堆積状況等を調査 し、撤去作業を実 施する。また、上 流域に大量堆積し ている流竹木につ いては、関係機関 とともに適切な時 期に撤去する。	密漁対策について は、関係機関と連 携し、対策を検討 する。

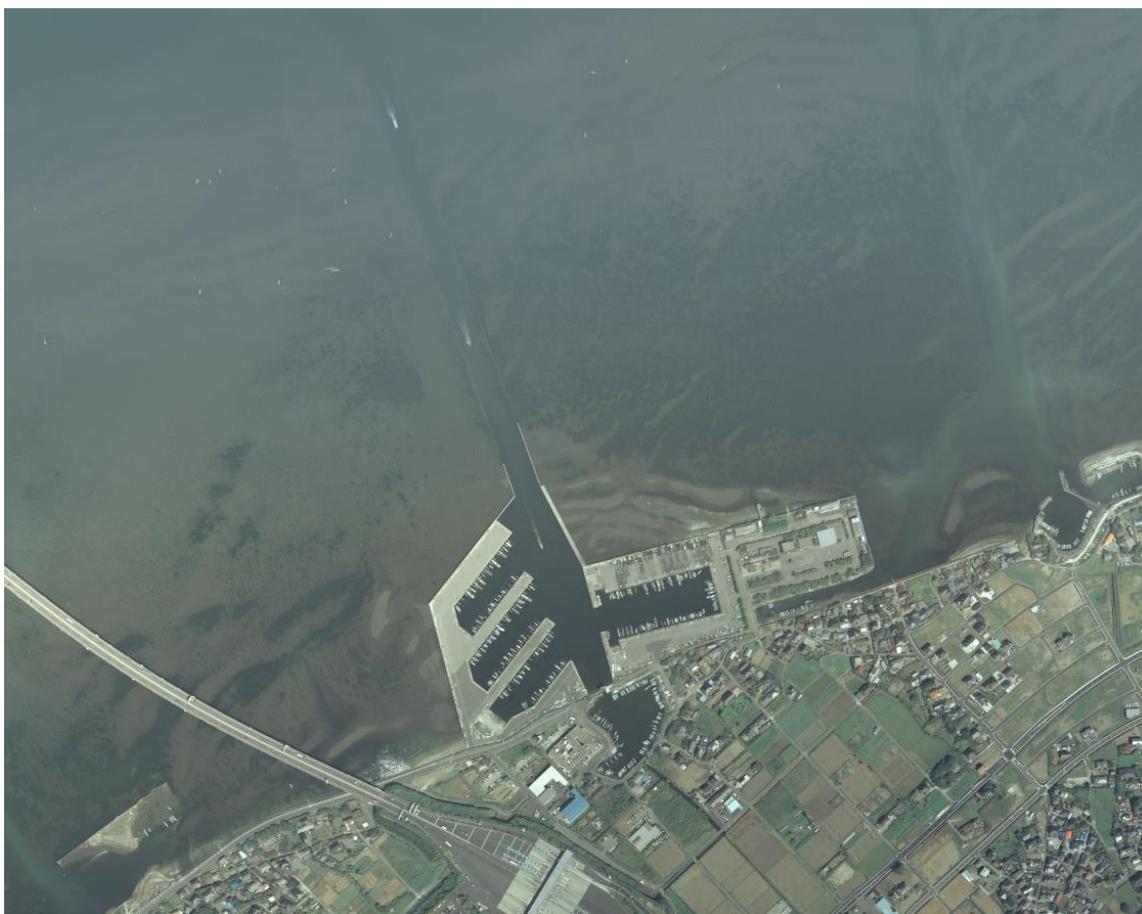
## 5 漁業生産基盤

本市の漁港施設は、牛込漁港、金田漁港（中島地区、瓜倉地区）の2漁港が第一種漁港として指定を受けており、水産業の健全な発展及びこれによる水産物の安定供給を図るため、漁港整備事業等により計画的に外郭施設（護岸、防波堤など）、係留施設（物揚場など）、輸送施設（道路など）等の整備を実施してきました。

水産物の安定供給のためには、漁業活動に必要な漁港施設の機能を将来にわたって、健全に保持していくことが必要です。

また、本市が維持管理している漁港以外では、各漁業協同組合が管理している漁船の船溜施設、航路等があり、漁業活動を円滑に進めるために、必要な整備を行っていくことが重要となっています。

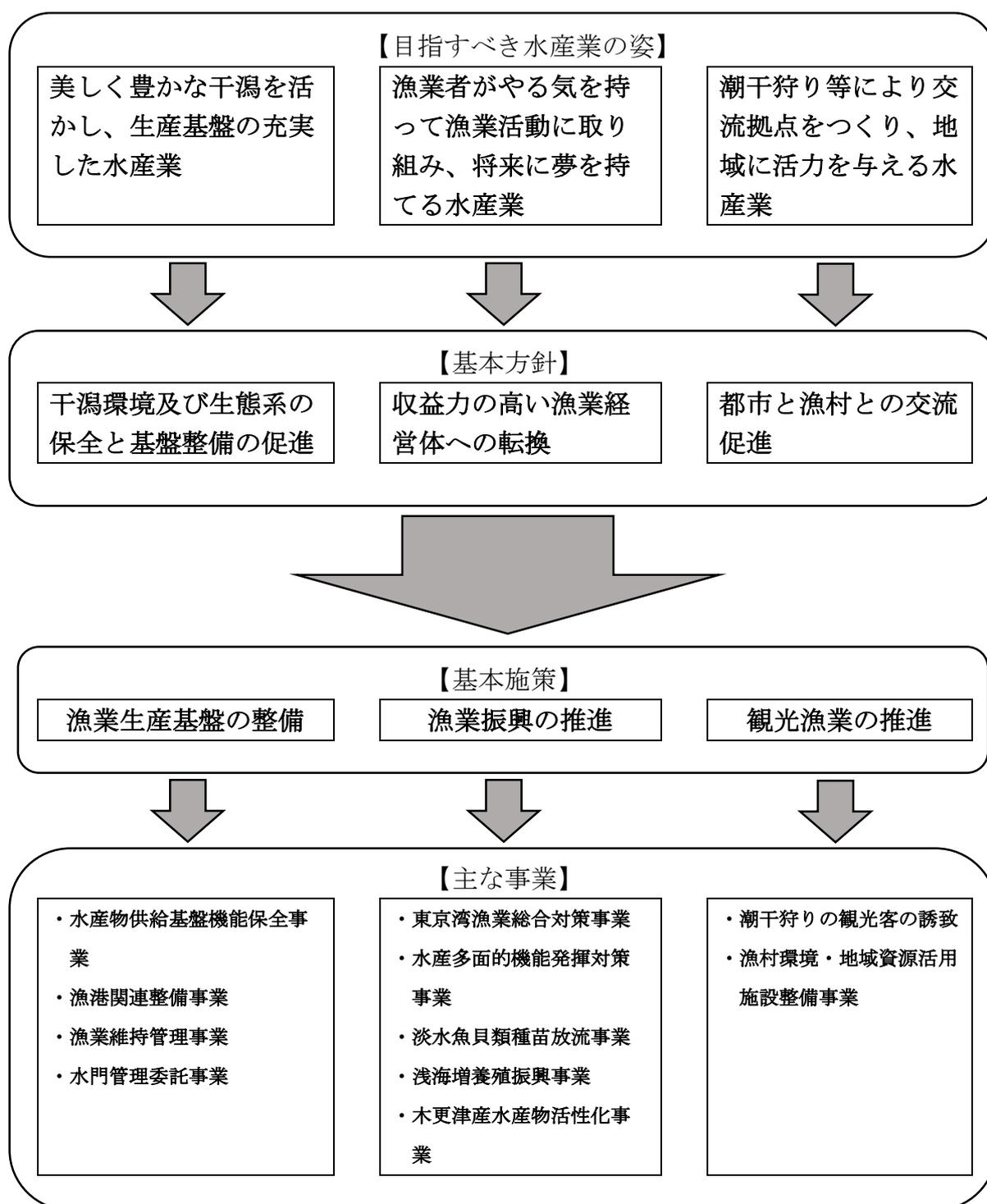
※第一種漁港 「漁港漁場整備法」においては、漁港のうち地元の漁船を主とするものを第一種漁港と位置付けています。



金田漁港 中島地区

### 第3章 水産振興計画体系図

この図は、「第4章 目指すべき水産業の姿」、「第5章 基本方針」、「第6章 基本施策」について、体系的に整理したものです。



## 第4章 目指すべき水産業の姿

- 1 美しく豊かな干潟を活かし、生産基盤の充実した水産業
- 2 漁業者がやる気を持って漁業活動に取り組み、将来に夢を持てる水産業
- 3 潮干狩り等により交流拠点をつくり、地域に活力を与える水産業

水産振興計画を作成するにあたり、本市水産業の現状や漁業者へのアンケート及び各漁業協同組合へのヒアリングを実施した結果を踏まえ、漁業者が望んでいる水産業の実現を図ります。

### 1 美しく豊かな干潟を活かし、生産基盤の充実した水産業

本市の盤州干潟は、小櫃川河口から沿岸部に広がる東京湾最大の自然干潟であり、ノリやアサリ等の養殖漁業などに適した浅海漁場となっています。この美しく豊かな干潟と沖に広がる海域を将来にわたって活かします。また、生産性の向上を図るため、生産基盤の充実した水産業を目指します。

### 2 漁業者がやる気を持って漁業活動に取り組み、将来に夢を持てる水産業

漁業者が厳しい現状を打開し、所得向上を目指して、やる気を持って漁業活動に取り組めるような産業にするために、将来に夢を持てる水産業を目指します。

### 3 潮干狩り等により交流拠点をつくり、地域に活力を与える水産業

本市の特色である潮干狩りなどの観光漁業により、都市住民との交流拠点をつくり、地域に活力を与える水産業を目指します。

#### 施策の達成度を測る指標

項目	年度	現 状	目 標 (H32年)
アサリ漁獲量		266 t/年 (H26年)	550 t/年
ノリ養殖漁業経営体当たりの生産枚数		60 万枚/年 (H26年) ※	66 万枚/年
潮干狩り入込客数		28 万人 (H27年)	35 万人

※アンケート調査の数字 (P. 27 の問8ノリの平均枚数) を採用します。

## 第5章 基本方針

- 1 干潟環境及び生態系の保全と基盤整備の促進
- 2 収益力の高い漁業経営体への転換
- 3 都市と漁村との交流促進

目指すべき木更津市の水産業を実現するために、施策・事業を計画・実行する際の指針として、基本方針を定めます。

### 1 干潟環境及び生態系の保全と基盤整備の促進

漁業生産力の回復を図るため、千葉県との連携の下に、漁場環境の変化を的確に把握するとともに、漁場である干潟環境と沖合域の保全及び生態系の保全に関する取組を支援していきます。

漁港については、水産物の安定的な提供を支える重要な役割を担っており、また、漁業地域における住民の安全性の確保を図る必要があるため、整備を推進し、漁業生産基盤の充実を図ります。

### 2 収益力の高い漁業経営体への転換

漁業者の高齢化・減少・後継者不足、アサリやノリ等の水揚量の減少などにより、各漁業協同組合は経営を維持していくことが困難な状況になっています。そのため、漁業者が漁業生産活動を行う上で不可欠な組織であり、地域における水産業振興の中核を担っている漁業協同組合の経営改善を図るため、新たな収入機会を確保する取組を推進します。また、漁業者が、所得向上を目指して、資源育成や漁場環境保全等に積極的に取り組めるような体制づくりを推進します。

国や千葉県、関係機関と連携し、収益性重視の漁業への転換を図るため、コスト縮減につながる取組に対して支援します。

水産物の商品価値を高め、販路拡大、販売額の向上を図るための取組に対して支援します。

### 3 都市と漁村との交流促進

漁村の活性化を図るために、潮干狩りなどの地域色のある漁業体験等の拡充を支援します。

都市からの来訪者の増加を図るために、地域資源を活用し、水産物等の魅力をPRするとともに、ブルーツーリズムを推進します。

※ブルーツーリズム：都市の人々が漁村生活や漁業体験を通じ、地域の人々との交流や、海などふるさとの風景を楽しむ余暇活動のことをいいます。



潮干狩りの様子（金田みたて海岸潮干狩り場）

## 第6章 基本施策

基本方針に基づき、「木更津市基本計画」における「水産業の振興」で位置づけた以下の3本の基本施策に積極的に取り組みます。

### 1 漁業生産基盤の整備

漁港施設の機能の充実を図ります。

- ・水産物の安定生産を支え、漁業従事者の安全な作業環境を確保するために、漁港施設の整備を推進します。
- ・漁港背後地域における住民の安全を確保するために、護岸などの施設の整備を推進します。
- ・漁船の安全な航行を確保するため、航路の維持浚渫を推進します。
- ・漁港施設の長寿命化及び更新コストの平準化・縮減を図るため、機能保全計画書を策定し、必要とされる漁港施設の予防保全工事を実施します。工事実施により、漁港施設の機能が保全され、漁業活動の円滑化、安全が確保されます。
- ・防災上、重要な施設である水門を適切に管理します。

### 2 漁業振興の推進

本市の重要な産業となっているノリ養殖及び貝類養殖をはじめ伝統ある水産業を将来にわたり振興していくため、浅海養殖栽培漁業及び内水面漁業の振興を推進します。特に、水産資源の増産対策及び生息環境を改善する取組、生産性向上を図る取組に対して重点的に支援します。

#### (1) 水産資源の維持・増大

- ・二枚貝資源の増産体制を促進するため、アサリ、ハマグリ の種苗放流を支援します。
- ・アサリの新たな資源育成技術（垂下式施設等）の導入等による貝類増産対策を支援します。
- ・栽培漁業の効果的な推進を図るため、マコガレイ等の種苗放流を支援します。また、魚類など水産資源の適切な管理を図るため、関係機関と連携して取組を推進します。

## (2) 経営基盤の強化

- ・ 漁業の合理化、生産性向上に必要な施設の整備を支援します。
- ・ 水産物の流通改善に必要な施設の整備を支援します。
- ・ 漁業経営を改善するために生産の協同化を推進する施設の整備を支援します。
- ・ 操業の効率化、経費節減等を図るために共同で利用する施設の整備を支援します。
- ・ ノリ漁場油濁事故に伴う被害の未然防止・軽減のために行う漁場監視を支援します。
- ・ 漁場の生産力を向上するために行う施設・機材の整備及び漁場改良事業を支援します。
- ・ 操業安全のために必要な標識物等の設置を支援します。
- ・ 漁業活動を円滑に進めるため、漁船の船溜施設、航路等を整備する事業を支援します。
- ・ 漁業被害の対応については、関係機関と連携して被害漁業者の支援等に取り組みます。

## (3) 漁場生産力の回復

- ・ 干潟浅海域での漁場生産力の向上を図るため、漁業者等グループによる害敵生物駆除、二枚貝保護のための防護措置、底質改善等の活動（水産多面的機能発揮対策事業）を支援します。
- ・ 貧酸素水塊対策については、県が提供する貧酸素水塊情報を活用するとともに、対策に関する研究について県から情報を収集し、有効な事業を支援します。
- ・ 高波浪を抑制する消波対策については、関係機関に対し、その対策について検討が進むように働きかけていきます。
- ・ 小櫃川からの流出物（竹木、ゴミ等）対策について、関係機関と連携して取り組みます。

## (4) 内水面漁業の振興

- ・ 小櫃川流域の淡水魚資源の維持培養と漁場環境の保全を図るため、小櫃川漁業協同組合が実施する種苗放流事業に対し、県・関係市と連携して支援します。
- ・ 小櫃川の下流域（金田・岩根地区）でのしじみ漁業の振興につながる取組を支援します。

#### (5) 担い手の確保

- ・就業希望者に対し、漁業に関する情報が得られるようにするため、県及び関係機関と連携して情報提供を行います。
- ・漁業就業を促進するため、漁業協同組合と連携して、必要な支援を行います。

#### (6) 流通・消費の拡大

- ・市場の動向や、漁業者ニーズ等の情報収集を積極的に行います。
- ・水産物の魅力を発信するため、漁業協同組合等と連携を図りながら、PRイベントを開催します。
- ・商談会等を活用した販路開拓の取組を支援します。
- ・水産物のブランド化を進める取組を支援します。
- ・水産物の付加価値を高める取組を支援します。
- ・木更津市優良特産品については、ホームページ上でPRすることによって、販売促進を図ります。
- ・6次産業化による商品の開発を進める取組を支援します。
- ・市場の機能を活用した流通体制の強化を支援します。
- ・漁業の生産現場の体験や紹介などの食育活動を支援します。

### 3 観光漁業の推進

本市における最大の観光事業である「潮干狩り」は、東日本大震災前の平成22年には35万人の来訪者があり、今後も重要な観光資源として位置づけられています。関係団体と協力し、誘致活動を展開するとともに、来訪者の満足度向上に努めます。

- ・従来のパンフレット、ポスターによる観光宣伝はもとより、ホームページなどを積極的に有効利用します。
- ・大規模集客施設である「海ほたるPA」や「三井アウトレットパーク木更津」、「イオンモール木更津」等と連携したPR活動を行います。
- ・県外におけるPR活動を実施して誘致を推進します。
- ・訪れる潮干狩り客の一人ひとりが満足頂けるよう、サービス向上に努めます。
- ・潮干狩り施設の休憩所など、都市住民との交流促進の拠点となっている施設の整備を支援します。
- ・漁業・漁村地域の情報や魅力を多様な媒体を通じて発信するとともに、ブルーリズムを推進します。

## 付属資料

### 1 策定の経過

木更津市水産振興計画策定検討委員会の設置  
委員名簿（次ページのとおり）

#### 検討状況

第1回委員会 平成27年6月18日  
第2回委員会 平成27年11月12日  
第3回委員会 平成28年2月12日

#### パブリックコメント

平成27年12月16日～平成28年1月15日

木更津市水産振興計画策定検討委員会委員名簿

	委員区分	氏名	役職名
1	学識経験者	鳥羽光晴	東京海洋大学 産学・地域連携推進機構 客員教授
2	漁業関係者	鳩飼康浩	牛込漁業協同組合代表理事組合長
3		荒井榮	金田漁業協同組合代表理事組合長
4		飯塚恒平	久津間漁業協同組合代表理事組合長
5		近藤章	江川漁業協同組合代表理事組合長
6		永峯善次郎	木更津市中里漁業協同組合代表理事組合長
7		内田武雄	木更津漁業協同組合代表理事組合長
8		粕谷清	小櫃川漁業協同組合代表理事組合長
9		笛木隆	千葉県漁業協同組合連合会参事兼指導部長
10		山口和江	女性漁業士
11		神谷利行	指導漁業士
12	流通関係	林善雄	木更津商工会議所 中小企業相談所所長
13		鶴岡英明	株式会社 木更津魚市場 鮮魚課長
14	消費関係	桑田静子	木更津市中央生活学校
15	観光関係	須藤宏一	木更津市観光協会事務局長
合計 15 名			
	オブザーバー	立岡大助	千葉県水産課企画指導室長
		梶山誠	千葉県水産総合研究センター東京湾漁業研究所所長

## 2 アンケート調査結果

現在の漁業の実態を明らかにするとともに、今後の漁業のあり方等について率直な意見を聞き、木更津市水産振興計画策定のための基礎資料とするため、漁業従事者を対象にアンケート調査を実施しました。

### アンケート期間、配布先、回収率

実施期間 2015/7/1～2015/7/31

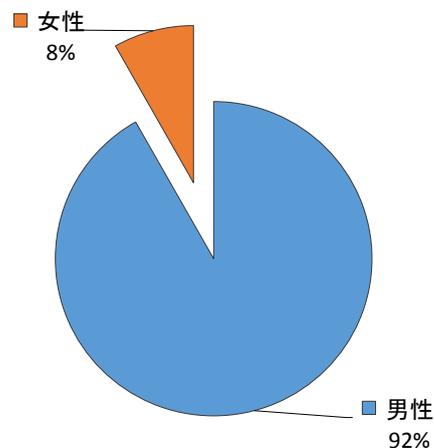
配布先	牛込 漁業協同組合	金田 漁業協同組合	久津間 漁業協同組合	江川 漁業協同組合	木更津市中里 漁業協同組合	木更津 漁業協同組合	不明	全体
正組合員数	130	361	106	28	31	69		725
配布人数 (漁業を主として営んでいる方)	130	361	25	14	19	69		618
回収人数	76	280	19	14	19	58	1	467
回収率	58%	78%	76%	100%	100%	84%		76%

### アンケート集計結果

アンケートの集計結果については基本的に小数第1位を四捨五入し表示しているため、個々の構成比の合計が100%にならない場合があります。

問1.あなたの性別は？		回答数	451
1. 男性	2. 女性	回答率	97%

	人数	割合
男性	414	92%
女性	37	8%
合計	451	100%



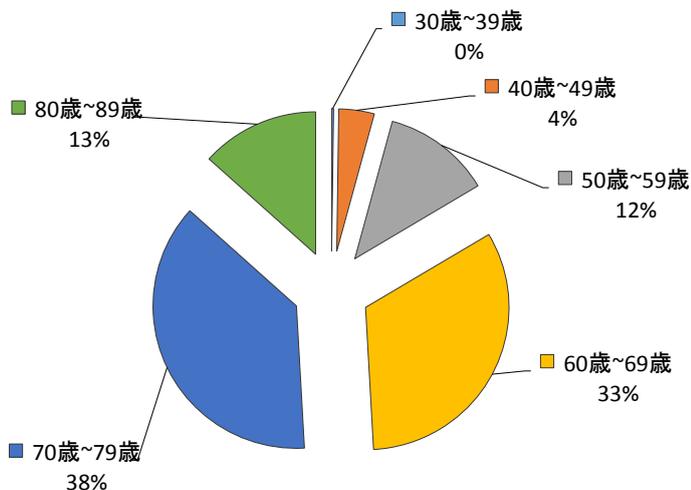
問2.あなたの年齢は？

— 才

回答数 450

回答率 96%

	人数	割合
30歳~39歳	1	0%
40歳~49歳	18	4%
50歳~59歳	55	12%
60歳~69歳	147	33%
70歳~79歳	169	38%
80歳~89歳	60	13%
合計	450	100%



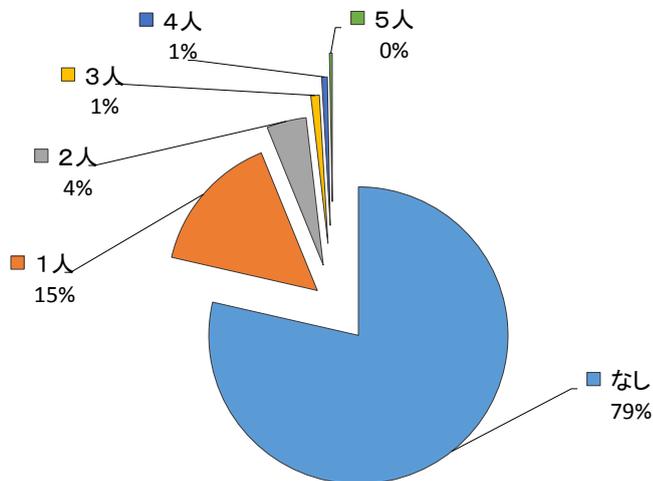
問3.家族であなた以外で一緒に働いている人は何人いますか？

— 人

回答数 327

回答率 70%

	人数	割合
なし	257	79%
1人	50	15%
2人	14	4%
3人	3	1%
4人	2	1%
5人	1	0%
合計	327	100%

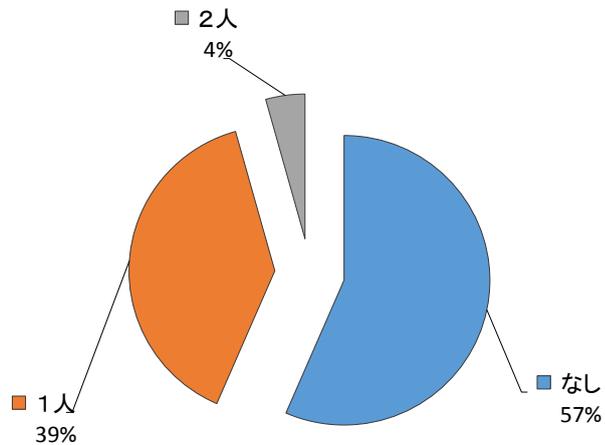


問4.家族以外に雇用している人は何人いますか？

— 人

回答数	23
回答率	5%

	人数	割合
なし	13	57%
1人	9	39%
2人	1	4%
合計	23	100%

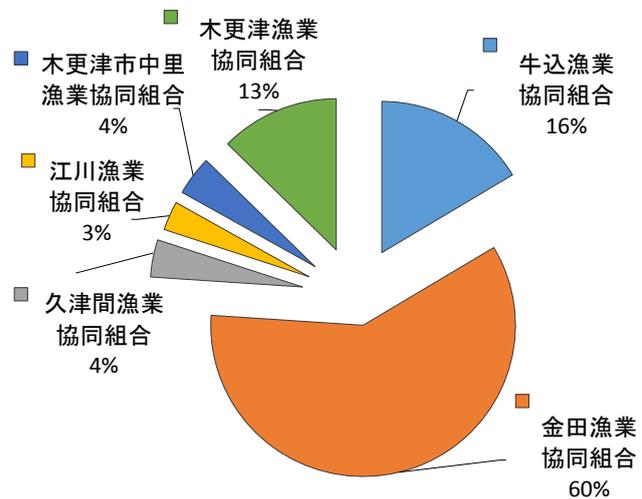


問5.あなたの所属する漁業協同組合は？

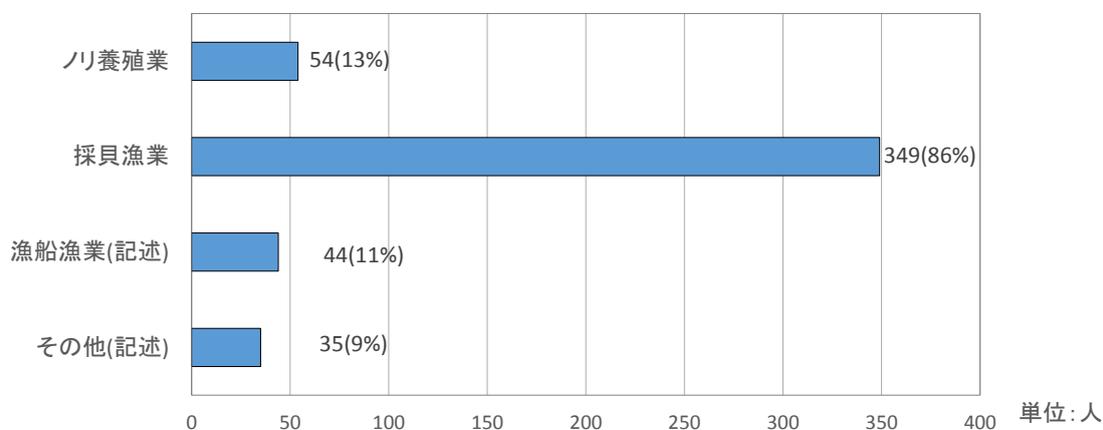
- |                 |              |
|-----------------|--------------|
| 1. 牛込漁業協同組合     | 2. 金田漁業協同組合  |
| 3. 久津間漁業協同組合    | 4. 江川漁業協同組合  |
| 5. 木更津市中里漁業協同組合 | 6. 木更津漁業協同組合 |

回答数	451
回答率	97%

	人数	割合
牛込漁業協同組合	74	16%
金田漁業協同組合	269	60%
久津間漁業協同組合	18	4%
江川漁業協同組合	14	3%
木更津市中里漁業協同組合	19	4%
木更津漁業協同組合	57	13%
合計	451	100%

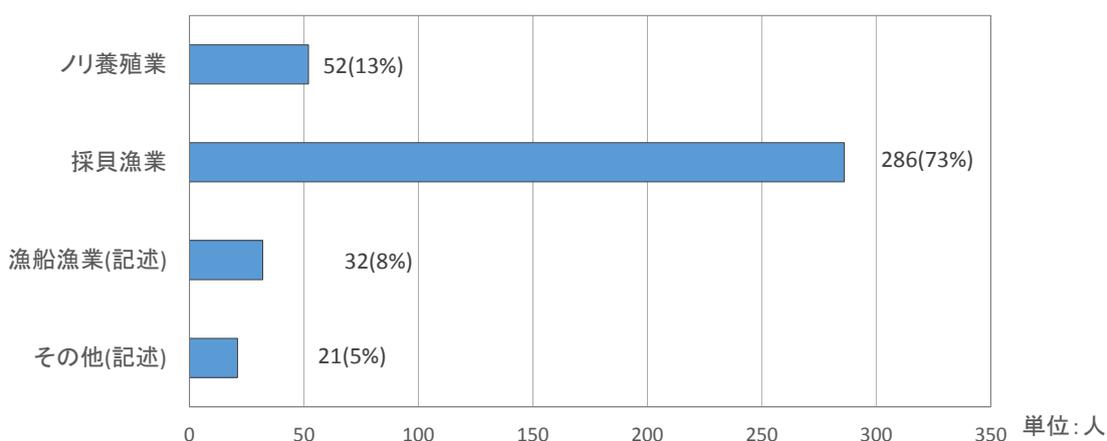


<b>問6.あなたが従事している漁業種類はどれですか？ (複数可)</b>				<b>回答数</b>	408
1. ノリ養殖業	2. 採貝漁業(アサリ等)			<b>回答率</b>	87%
3. 漁船漁業( )	4. その他( )				



記述内訳	漁船漁業 (記述)	底引き	刺網(かけ網)	穴子筒	その他	無回答	合計
		15	8	3	4	14	44
記述内訳	その他 (記述)	仲買	その他	無回答			
		3	19	13	合計 35		

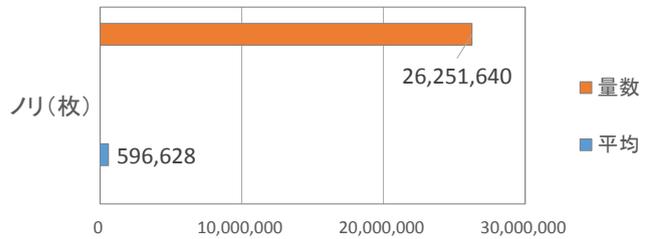
<b>問7.主たる漁業種類はどれですか？</b>				<b>回答数</b>	391
1. ノリ養殖業	2. 採貝漁業(アサリ等)			<b>回答率</b>	84%
3. 漁船漁業( )	4. その他( )				



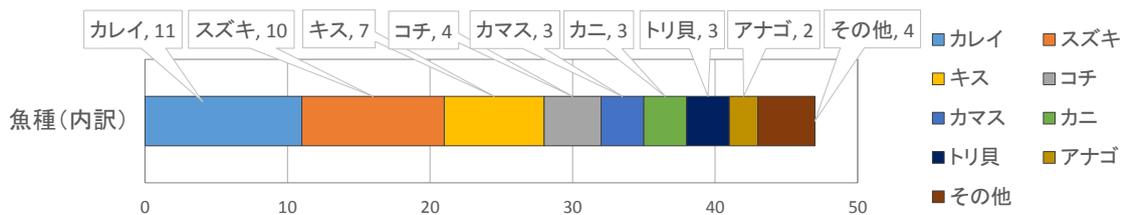
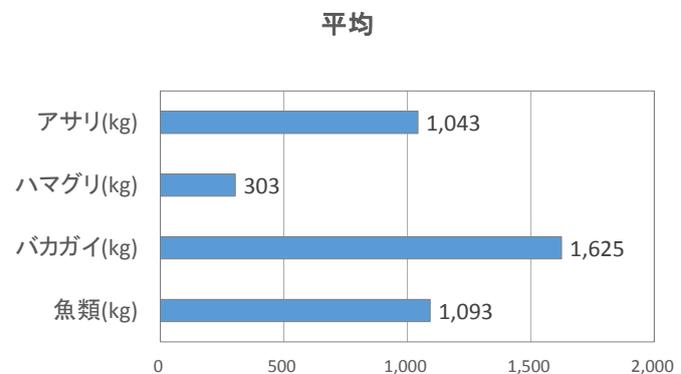
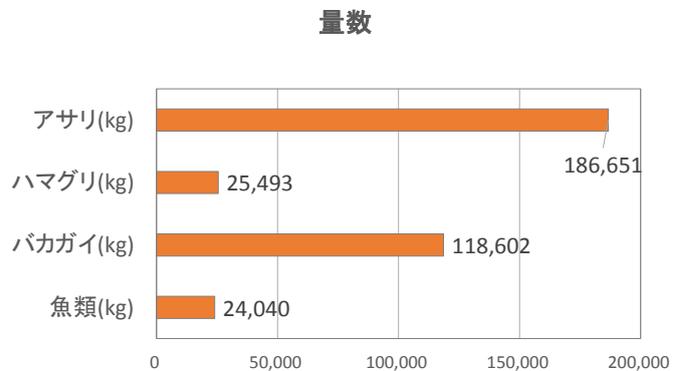
記述内訳	漁船漁業 (記述)	底引き	刺網(かけ網)	穴子筒	その他	無回答	合計
		12	5	1	4	10	32
記述内訳	その他 (記述)	仲買	その他	無回答			
		1	8	12	合計 21		

<b>問8.あなたの漁獲量はどれくらいですか？ (複数可)</b>		回答数	235
<b>※対象：平成26年度 (平成26年4月1日～平成27年3月31日)</b>		回答率	50%
1. ノリ_枚	2. アサリ_k g		
3. ハマグリ_Kg	4. バカガイ_Kg		
5. 魚類_kg ⇒ 主な漁類 ( )			

	人数	量数	平均
ノリ (枚)	44 (19%)	26,251,640	596,628



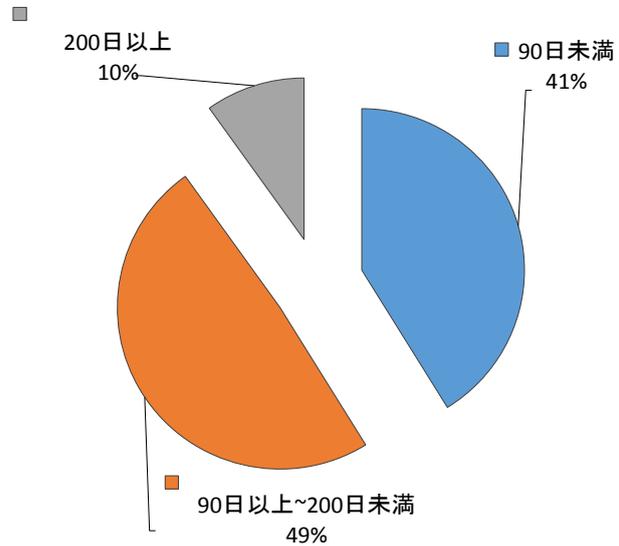
アサリ (k g)	179 (76%)	186,651	1,043
ハマグリ (k g)	84 (36%)	25,493	303
バカガイ (k g)	73 (31%)	118,602	1,625
魚類 (k g)	22 (9%)	24,040	1,093



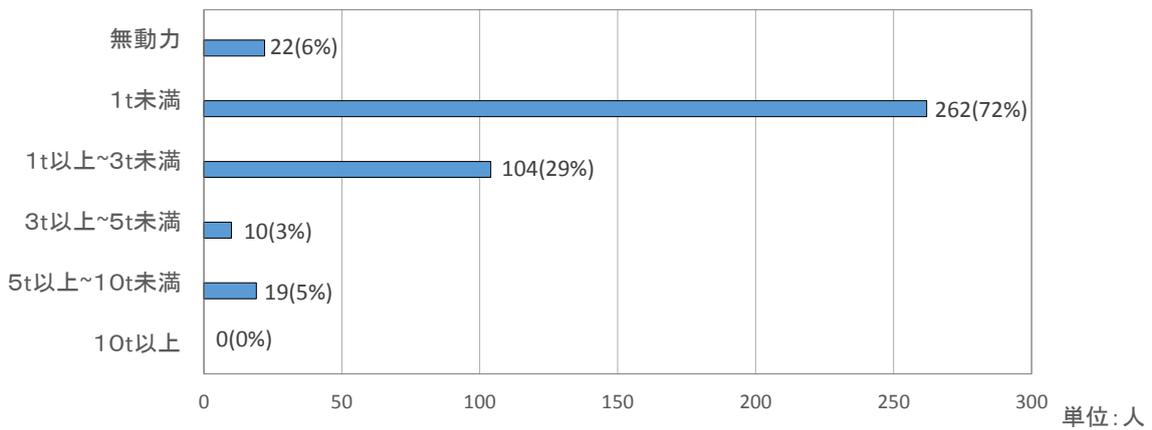
単位：人

<b>問9.あなたが漁業に従事した日数はどれくらいですか？</b>		回答数	374
※対象：平成26年度（平成26年4月1日～平成27年3月31日）		回答率	80%
1. 90日未満	2. 90日以上～200日未満		
3. 200日以上			

	人数	割合
90日未満	154	41%
90日以上～200日未満	183	49%
200日以上	37	10%
合計	374	100%



<b>問10.あなたの所有している漁船の規模はどれくらいですか？</b>		回答数	363
(複数可)		回答率	78%
1. 無動力	2. 1 t 未満		
3. 1 t 以上～3 t 未満	4. 3 t 以上～5 t 未満		
5. 5 t 以上～10 t 未満	6. 10 t 以上		



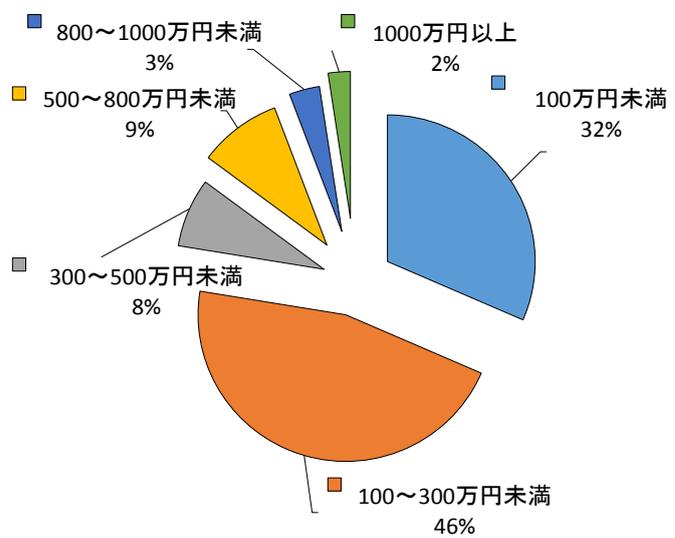
問11.あなたの漁業収入はどれくらいですか？

※対象：平成26年1月1日～平成26年12月31日

( 万円)

回答数	330
回答率	71%

	人数	割合
100万円未満	104	32%
100～300万円未満	152	46%
300～500万円未満	25	8%
500～800万円未満	30	9%
800～1000万円未満	11	3%
1000万円以上	8	2%
合計	330	100%

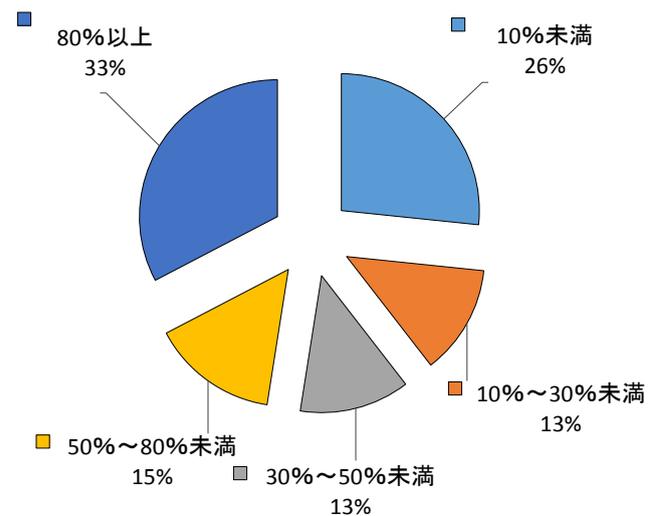


問12.あなたの世帯の所得全体に占める漁業所得の割合はどれくらいですか？

1. 10%未満
2. 10%以上～30%未満
3. 30%以上～50%未満
4. 50%以上～80%未満
5. 80%以上

回答数	364
回答率	78%

	人数	割合
10%未満	97	26%
10%～30%未満	47	13%
30%～50%未満	47	13%
50%～80%未満	54	15%
80%以上	119	33%
合計	364	100%



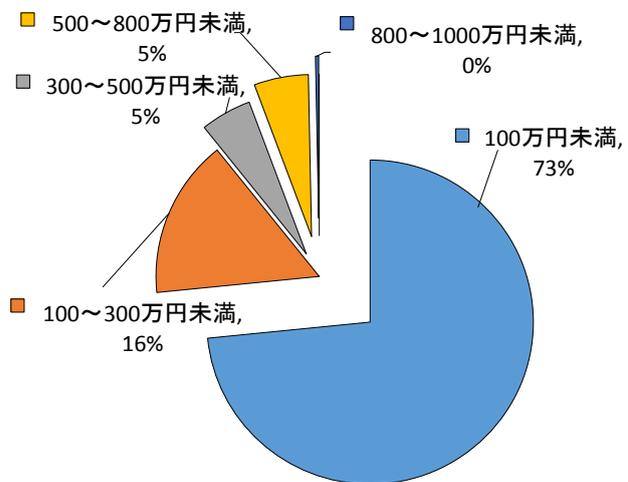
問13.あなたの漁業にかかる経費はどれくらいですか？

※対象：平成26年1月1日～平成26年12月31日

( 万円)

回答数	316
回答率	68%

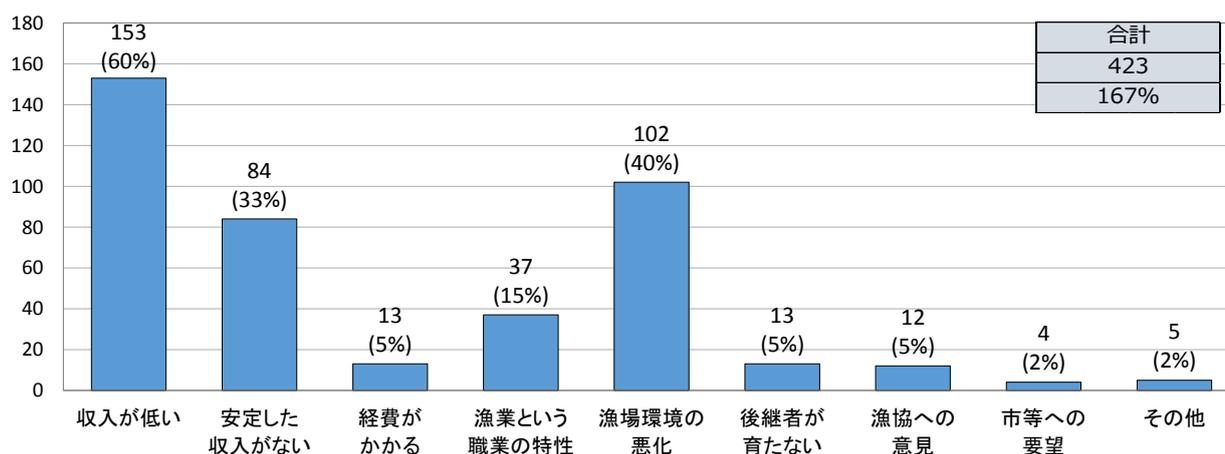
	人数	割合
100万円未満	232	73%
100～300万円未満	50	16%
300～500万円未満	16	5%
500～800万円未満	17	5%
800～1000万円未満	1	0%
1000万円以上	0	0%
合計	316	100%



問14.漁業後継者が少ないといわれていますが、その理由は何だと思いませんか？	回答数	253
	回答率	54%

アンケートにて得られた回答のなかから、共通要素を取り出して分類、集計しました。また、一つの意見の中に複数の要素が含まれているような場合に関してはその両方で数えて集計しました。そのため全体の回答率は100%以上となります。

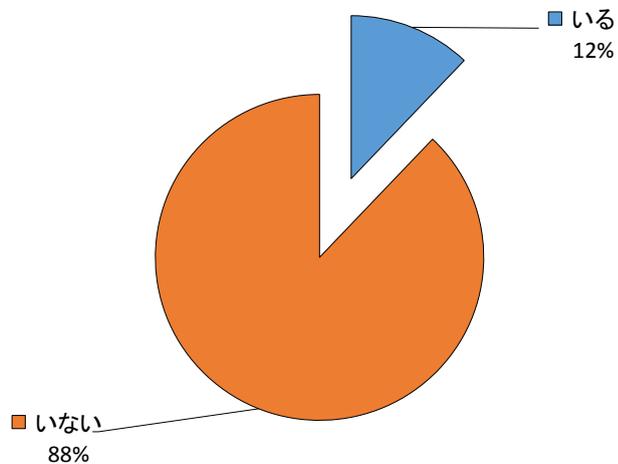
- ① 収入が低い [ 低収入、価格の低下、水揚の減少など ]
- ② 安定した収入がない [ 収入が安定しない、将来の見通しがつけられないなど ]
- ③ 経費がかかる [ 燃料の値上がり、高価な機材等にコストがかかるなど ]
- ④ 漁業という職業の特性 [ 労働がきつい、仕事を覚えるのに時間がかかる、個人個人の裁量が大きく格差の大きい仕事であるなど ]
- ⑤ 漁場環境の悪化 [ 海況が不安定、温暖化、ウミグモの影響、水質の変化など ]
- ⑥ 後継者が育たない [ 若い人が少ない、水揚が少なく若い人がやらない、収入が安定しないので会社勤めをするなど ]
- ⑦ 漁協への意見 [ 漁業者のための収入確保、新たな事業展開、他の漁協との協力、違反者対策など ]
- ⑧ 市等への要望 [ 水産多面的機能発揮対策事業の継続や、活性化策など ]
- ⑨ その他 [ 漁業者全体が高齢化している、消費者の魚離れなど ]



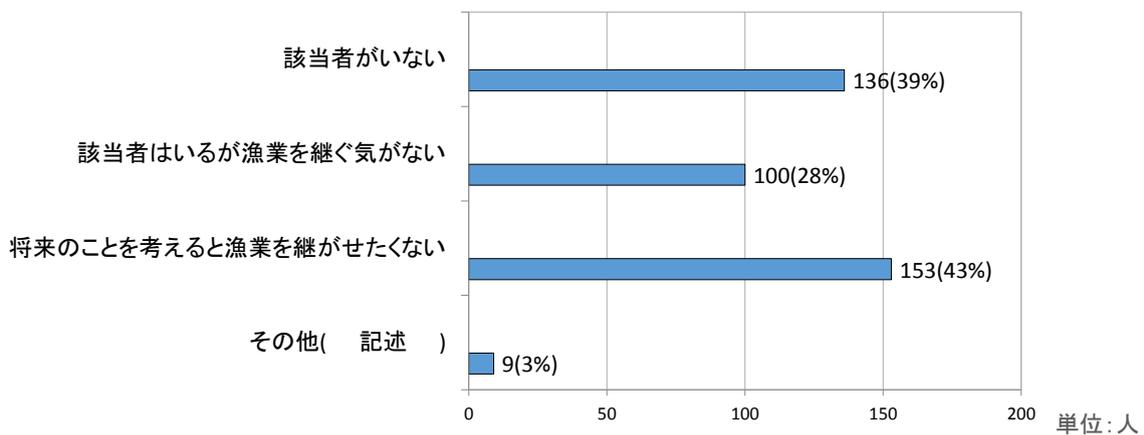
単位:人

<b>問15.あなたの世帯には漁業後継者がいますか？</b>		回答数	422
1. いる	2. いない	回答率	90%

	人数	割合
いる	51	12%
いない	371	88%
合計	422	100%



<b>問16.問15で「②いない」と回答された方にお尋ねします。</b>		回答数	353
<b>いない理由は何ですか？（複数可）</b>		回答率	76%
1. 該当者がいない	2. 該当者はいるが漁業を継ぐ気がない		
3. 将来のことを考えると漁業を継がせたくない	4. その他（ ）		

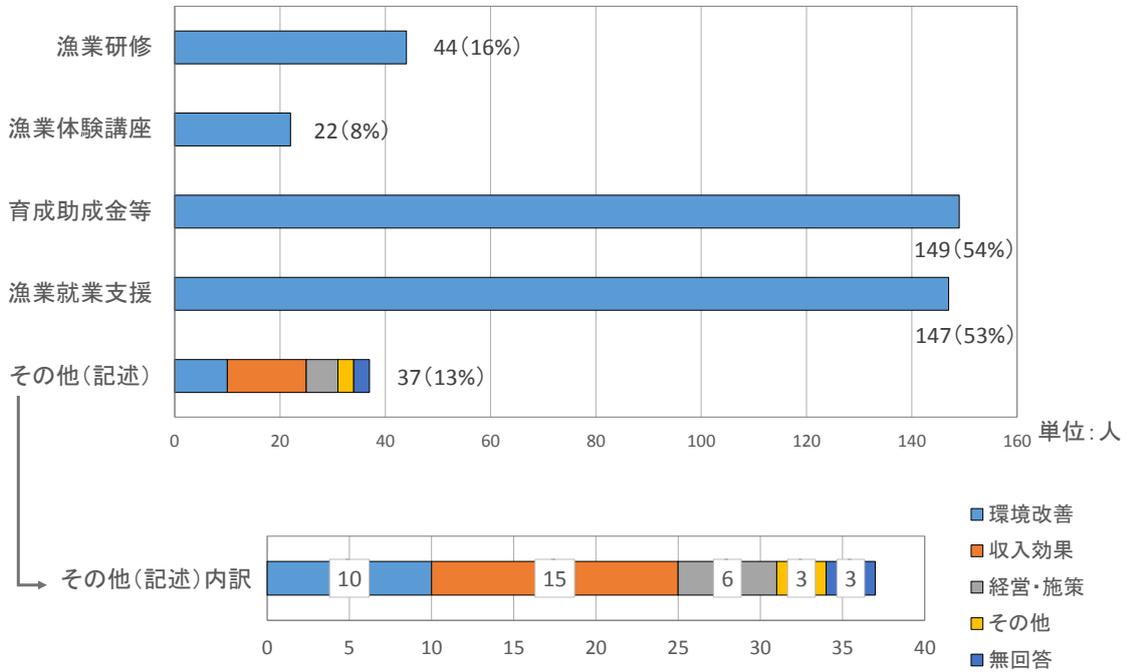


問17.担い手の確保・育成について、今後必要なことは何だと思えますか？

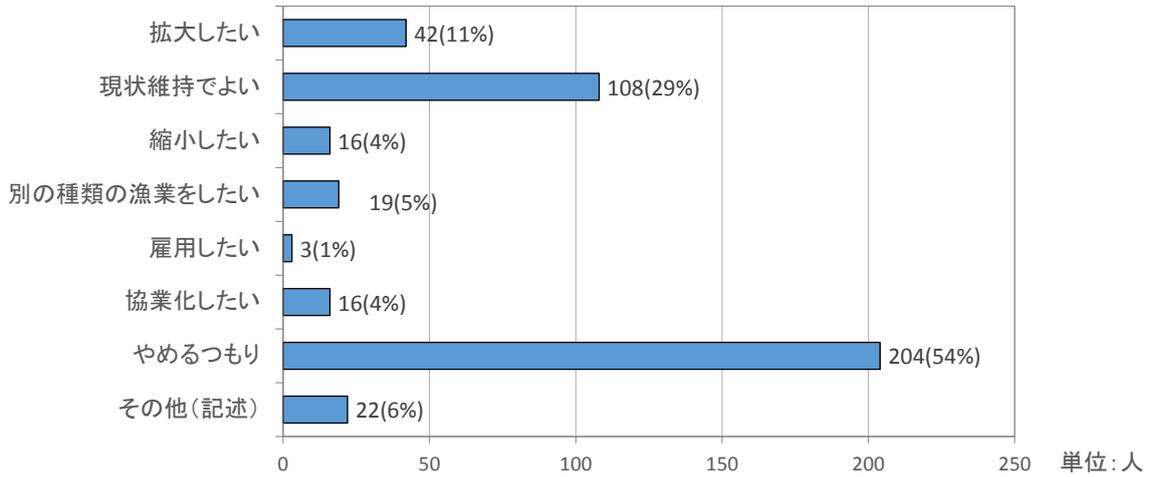
回答数	278
回答率	60%

(複数可)

- 1. 漁業研修
- 2. 漁業体験講座
- 3. 育成助成金等
- 4. 漁業就業支援
- 5. その他 ( )



<b>問18.あなたの漁業について、将来どのようにしたいと考えていますか？</b>		<b>回答数</b>	376
<b>(複数可) 例：(種類：ノリ、アサリ)</b>		<b>回答率</b>	81%
1. 拡大したい (種類： )	2. 現状維持でよい (種類： )		
3. 縮小したい (種類： )	4. 別の種類の漁業をしたい (種類： )		
5. 雇用したい (種類： )	6. 協業化したい (種類： )		
7. やめるつもり (種類： )	8. その他 ( )		



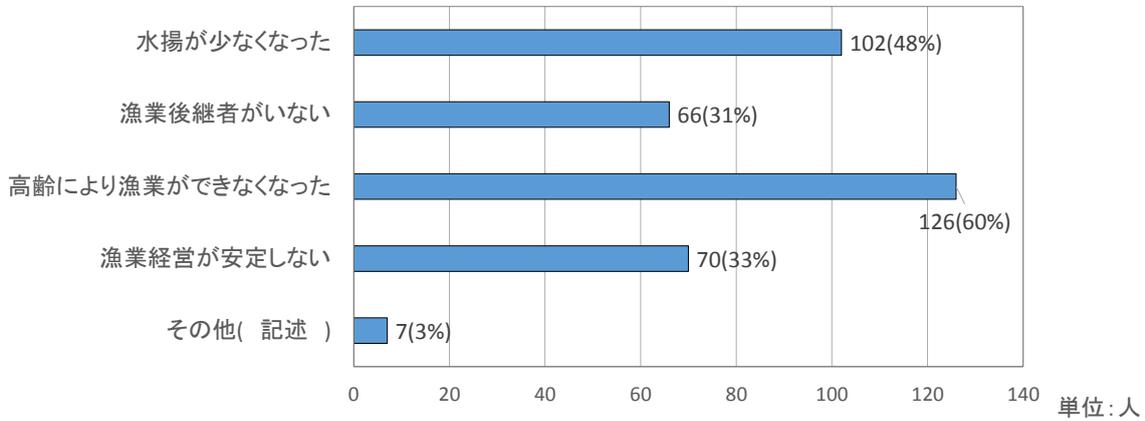
種類内訳	ノリ	アサリ	ハマグリ	バカガイ	魚類	その他
拡大したい	3	36	5	6	1	2
現状維持でよい	19	43	2	5	4	12
縮小したい	5	7	0	1	0	1
別の種類の漁業をしたい	0	2	1	0	4	4
雇用したい	2	0	0	0	0	1
協業化したい	3	3	0	0	0	1
やめるつもり	15	32	1	1	1	2

問19.問18で「⑦やめるつもり」と回答された方にお尋ねします。

回答数	211
回答率	45%

やめる理由は何ですか？（複数可）

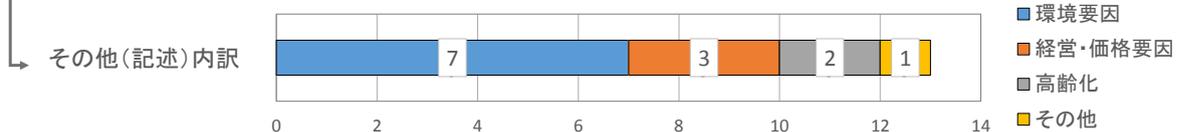
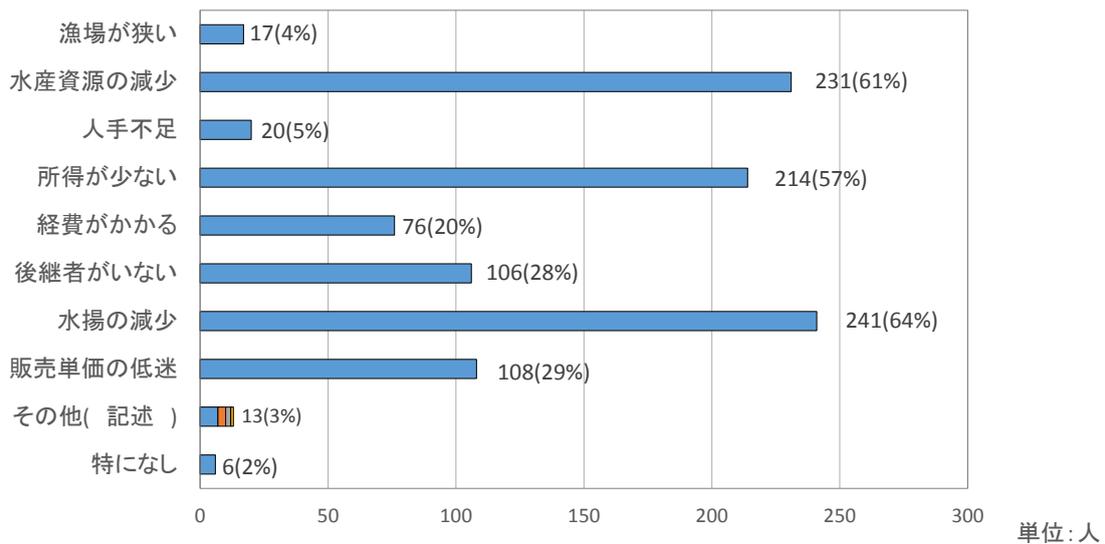
1. 水揚が少なくなった
2. 漁業後継者がいない
3. 高齢により漁業ができなくなった
4. 漁業経営が安定しない
5. その他（ ）



問20.あなたが漁業をやっていくうえで、問題だと考えているのは何ですか？（複数可）

回答数	378
回答率	81%

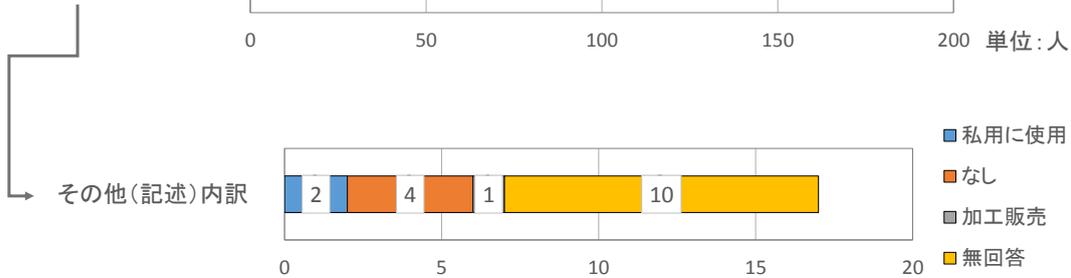
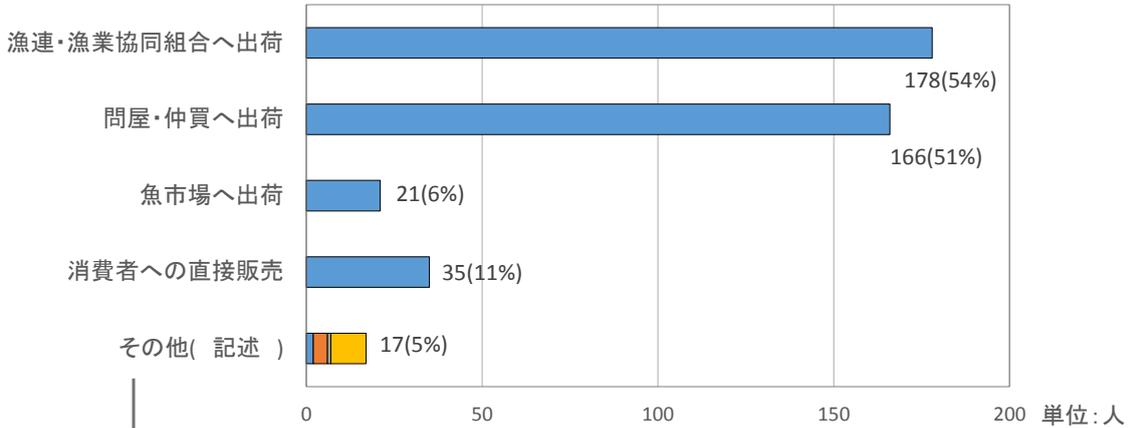
1. 漁場が狭い
2. 水産資源の減少
3. 人手不足
4. 所得が少ない
5. 経費がかかる
6. 後継者がいない
7. 水揚の減少
8. 販売単価の低迷
9. その他（ ）
10. 特になし



**問21.あなたの現状の出荷形態は？（複数可）**

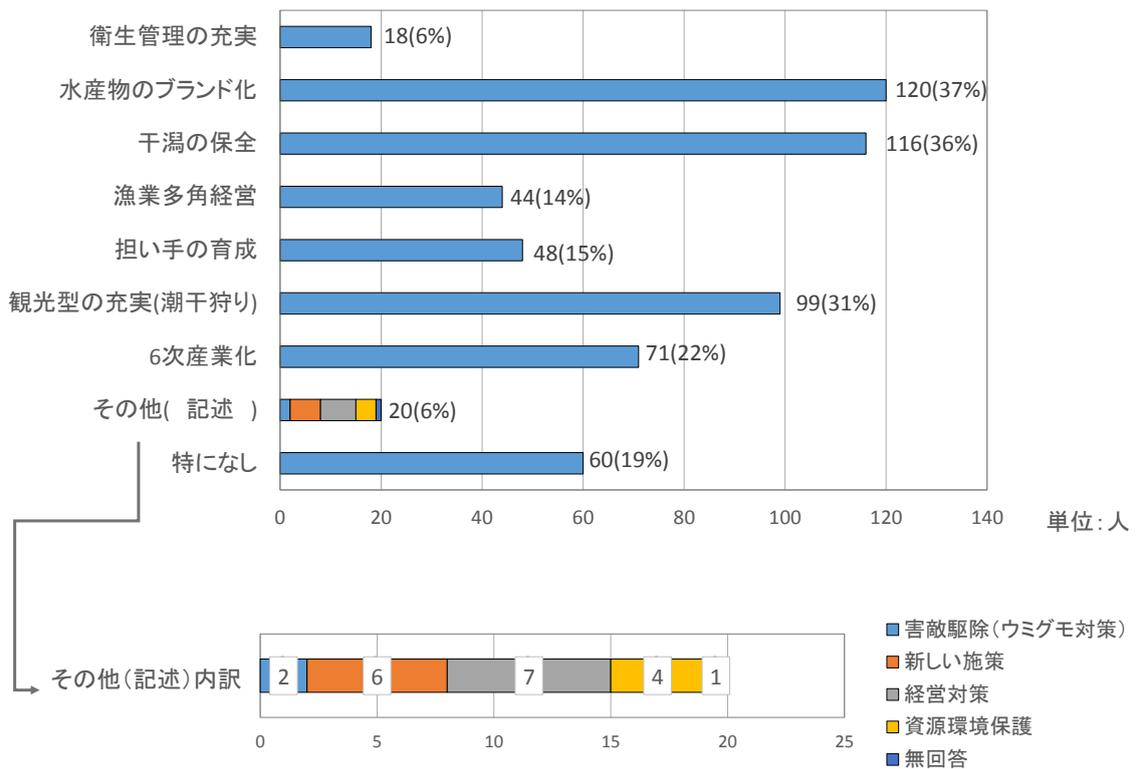
回答数	327
回答率	70%

1. 漁連・漁業協同組合へ出荷（種類： ）
2. 問屋・仲買へ出荷（種類： ）
3. 魚市場へ出荷（種類： ）
4. 消費者への直接販売（種類： ）
5. その他（ ）



種類内訳	ノリ	アサリ	ハマグリ	バカガイ	その他貝類	魚類
漁連・漁業協同組合へ出荷	28	69	29	12	5	2
問屋・仲買へ出荷	2	69	2	32	9	14
魚市場へ出荷	0	1	0	0	3	6
消費者への直接販売	12	6	0	0	1	1

<b>問22.今後、漁業振興していくうえで漁業協同組合に取り組んでもらいたいことは何ですか？（複数可）</b>	回答数	324
	回答率	69%
1. 衛生管理の充実 2. 水産物のブランド化 3. 干潟の保全 4. 漁業多角経営 5. 担い手の育成 6. 観光型の充実（潮干狩り） 7. 6次産業化※1 8. その他（ ） 9. 特になし		
※1 『6次産業化』とは？ 農林漁業者（1次産業従事者）が、農林水産物の生産だけにとどまらず、自ら連携して加工（2次産業）・流通や販売（3次産業）に取り組む経営の多角化を進めること。		



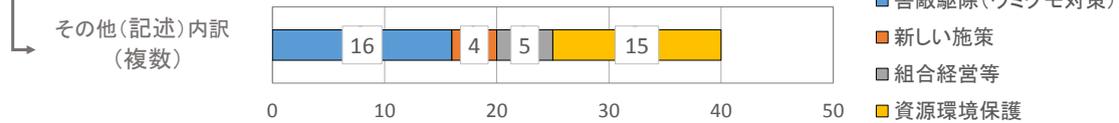
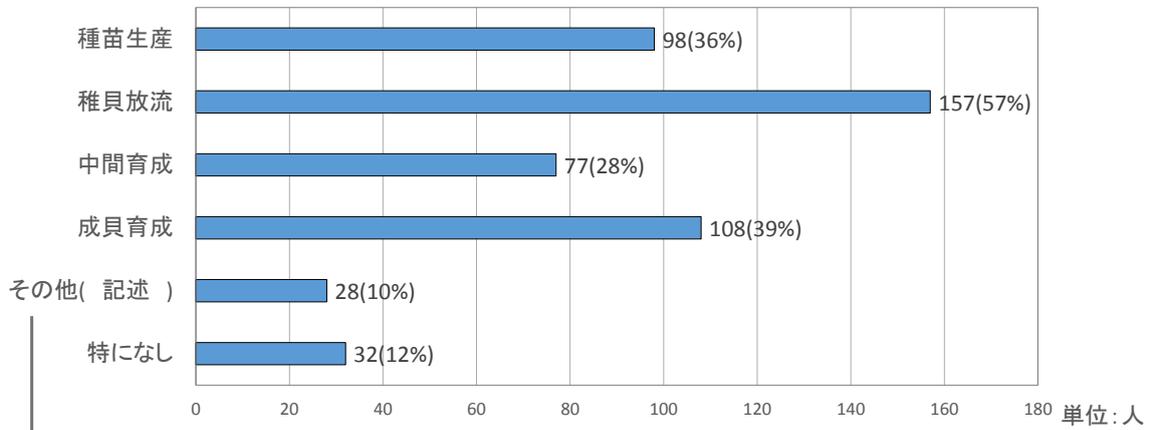
問23.アサリ漁業をしている方にお尋ねします。

回答数 276

アサリ資源の減少に伴い今後必要だと思う対策は何ですか？（複数可）

回答率 59%

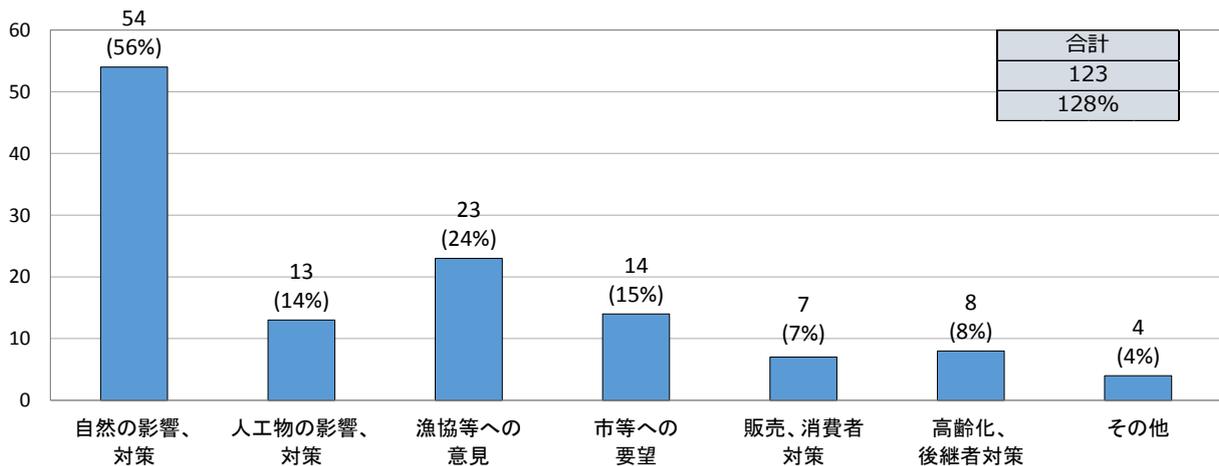
- |           |         |
|-----------|---------|
| 1. 種苗生産   | 2. 稚貝放流 |
| 3. 中間育成   | 4. 成貝育成 |
| 5. その他（ ） | 6. 特になし |



問24.水産業への自由なご意見・ご提言	回答数	96
	回答率	21%

問.14と同じく回答をいただいた中から、共通要素を分類、集計しました。こちらは自由意見のため、より多岐にわたる内容となっていました。こちらの回答の全体の合計率についても100%以上となります。

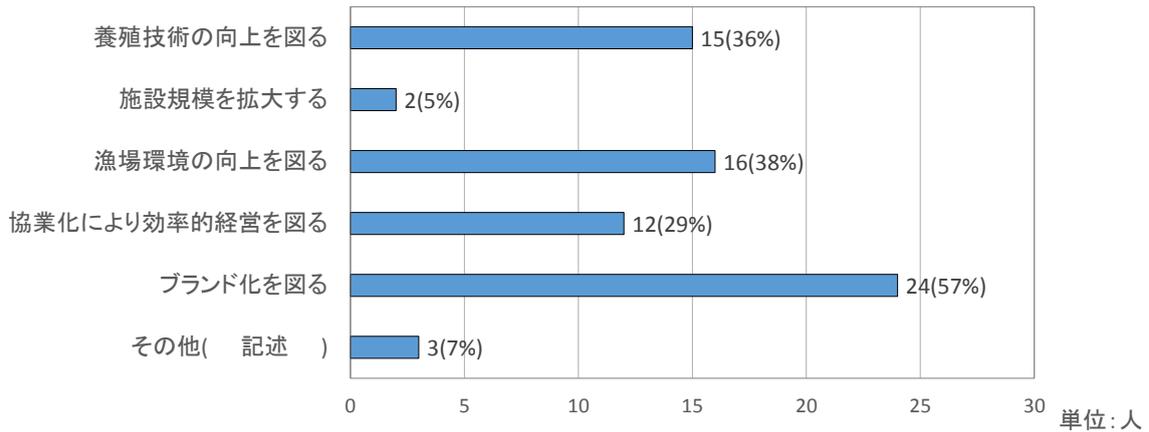
- ① 自然の影響、対策 [ ウミグモ対策、水質調査、海水の酸素不足対策、流砂対策、アサリの発生原因究明など ]
- ② 人工物の影響、対策 [ 木更津防波堤の反射波、企業が排出する温排水、航路両側の鋼矢板の影響など ]
- ③ 漁協等への意見 [ 生産調整、販売単価の調整、経営のやり方、組合員の意見を聞く体制、商品の付加価値を高めること、組合活動の活性化など ]
- ④ 市等への要望 [ 補助金の継続、水産多面的機能発揮対策事業の継続、アサリが取れなくなった原因の究明及び対策、冬季のアサリ死滅原因の究明、今後の水産業のあり方検討とそれを踏まえた早急な対応など ]
- ⑤ 販売、消費者対策 [ 魚離れの防止、市場の活性化、魚へのこだわり（レシピ等）の発信、地元水産物の強化（ブランド化）、消費者への周知・アピールなど ]
- ⑥ 高齢化、後継者対策 [ 後継者の育成が行われていない、若者に魅力ある収入が得られる事を考えるべき、若者の集まる環境を作るべきなど ]
- ⑦ その他 [ アサリがないので他にたよるしかないなど ]



単位:人

ノリ養殖業に関する質問（全体54人）

<b>問25. 将来、あなたのノリ養殖業について、どのような方法で経営の安定を図りたいですか？（複数可）</b> 1. 養殖技術の向上を図る 2. 施設規模を拡大する 3. 漁場環境の向上を図る 4. 協業化により効率的経営を図る 5. ブランド化を図る 6. その他（ ）	回答数	42
	回答率	78%



問26. 柵数及び出荷先についてお尋ねします。

※平成26年度漁期（平成26年8月～平成27年4月）

※1柵→20間網換算とします。

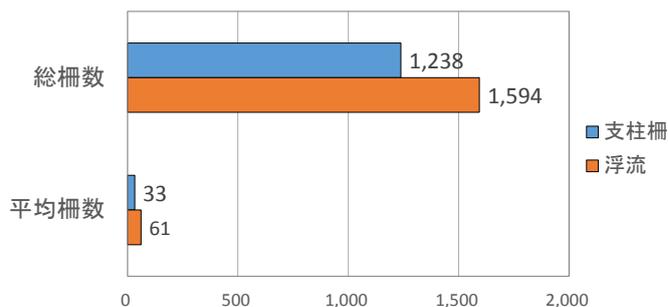
回答数	38
回答率	70%

1. 支柱柵 (            柵) } 生産枚数 (            枚) (※1+2)
2. 浮流 (            柵) }
3. 出荷先 ・ 共 販                    : 出荷枚数 (            枚)
- ・ その他 (出荷先 :            : 出荷枚数 (            枚))

1・2.

支柱柵・浮流

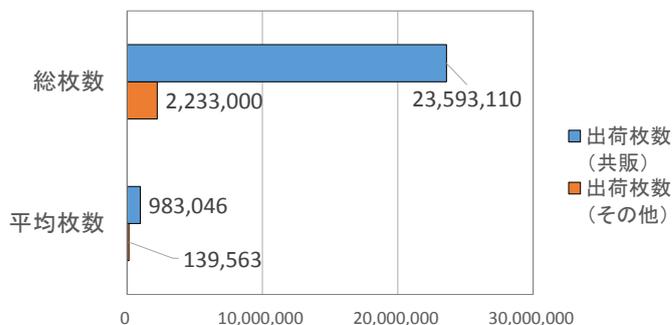
	人数	総柵数	平均柵数
支柱柵	38 (100%)	1,238	33
浮流	26 (68%)	1,594	61



	人数	総生産枚数	平均生産枚数
生産枚数 (※1+2)	24 (63%)	18,630,010	776,250

3. 出荷先

	人数	総枚数	平均枚数
共販	24 (63%)	23,593,110	983,046
その他	16 (42%)	2,233,000	139,563

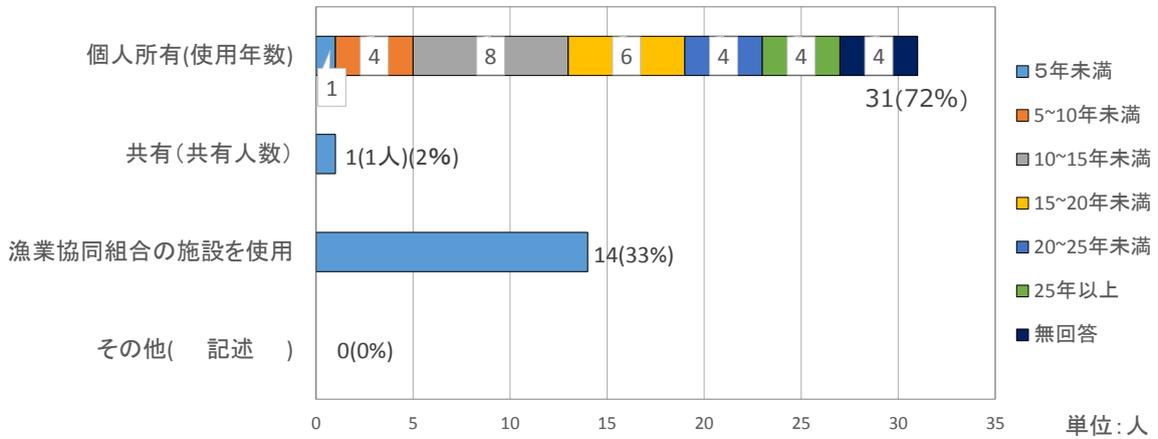


	小売	消費者へ直接販売	直売所等	無回答
その他内訳	2	2	2	10

問27.ノリ乾燥機についてお尋ねします。(複数可)

1. 個人所有(使用年数: 年)      2. 共有(何人: 人)  
 3. 漁業協同組合の施設を使用      4. その他( )

回答数	43
回答率	80%

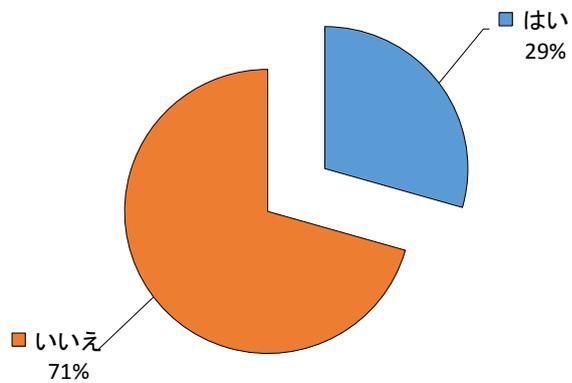


問28.体験型漁業をする場合、受け入れられますか？

1. はい      2. いいえ

回答数	34
回答率	63%

	人数	割合
はい	10	29%
いいえ	24	71%
合計	34	100%



### 3 平成27年度の主な事業

施策区分	事業名
<p>漁業生産基盤の整備</p>	<p>○水産物供給基盤機能保全事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁港施設の機能保全計画書を策定し、保全工事を実施することによって、施設の長寿命化を図ります。</li> </ul> <p>○漁港関連整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁船の航行及び漁業作業の安全を図るため、漁港区域内施設の補修等の工事を実施します。</li> </ul> <p>○漁業維持管理事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁港を良好な環境に保つため、適正な維持管理を実施します。</li> </ul> <p>○水門管理委託事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁港区域内にある水門を良好に管理するため、操作管理、保守点検、修繕等を実施します。</li> </ul>
<p>漁業振興の推進</p>	<p>○東京湾漁業総合対策事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業協同組合が実施する漁場環境の改善、資源の育成・導入及び生産性の向上等の事業に対し、千葉県と連携して補助を実施します。</li> </ul> <p>(事業種目)</p> <p>二枚貝増産体制促進事業、共同利用施設設置事業、のり漁場油濁監視事業、漁場改良事業、海難予防施設設置事業、流通改善施設整備事業、船溜、濤整備事業、生産管理対策事業等</p> <p>○水産多面的機能発揮対策事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁場である干潟の環境及び生態系を保全することを目的に実施する漁業者等の活動に対して支援します。</li> </ul> <p>○淡水魚貝類種苗放流事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内水面漁業資源の維持増大を図る事業に対し、県・関係市と連携して支援します。</li> </ul> <p>○浅海増養殖振興事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業協同組合が実施する新規事業等に対して支援します。</li> </ul> <p>○木更津産水産物活性化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木更津産水産物の流通活性化等を図るため、各種事業を実施します。</li> </ul>

観光漁業の推進	<ul style="list-style-type: none"><li>○潮干狩りの観光客の誘致<ul style="list-style-type: none"><li>・関係団体と連携してPR活動を実施し、観光客を誘致します。</li></ul></li><li>○漁村環境・地域資源活用施設整備事業<ul style="list-style-type: none"><li>・潮干狩場の来場者を増大させるため、トイレ、休憩所などの施設を整備・改善します。</li></ul></li></ul>
---------	--

## 木更津市水産振興計画

平成28年3月 発行

編集・発行 木更津市経済部農林水産課

〒292-8501 木更津市富士見一丁目2番1号

TEL 0438-23-8454 FAX 0438-23-0075